



Trend Micro Control Manager™ 7.0

インストールガイド

※注意事項

複数年契約について

- ・お客さまが複数年契約（複数年分のサポート費用前払い）された場合でも、各製品のサポート期間については、当該契約期間によらず、製品ごとに設定されたサポート提供期間が適用されます。
- ・複数年契約は、当該契約期間中の製品のサポート提供を保証するものではなく、また製品のサポート提供期間が終了した場合のバージョンアップを保証するものではありませんのでご注意ください。
- ・各製品のサポート提供期間は以下の Web サイトからご確認いただけます。

<http://esupport.trendmicro.com/ja-jp/support-lifecycle/default.aspx>

著作権について

本ドキュメントに関する著作権は、トレンドマイクロ株式会社へ独占的に帰属します。トレンドマイクロ株式会社が事前に承諾している場合を除き、形態および手段を問わず、本ドキュメントまたはその一部を複製することは禁じられています。本ドキュメントの作成にあたっては細心の注意を払っていますが、本ドキュメントの記述に誤りや欠落があってもトレンドマイクロ株式会社はいかなる責任も負わないものとします。本ドキュメントおよびその記述内容は予告なしに変更される場合があります。

商標について

TRENDMICRO、TREND MICRO、ウイルスバスター、InterScan、INTERSCAN、VIRUSWALL、InterScanWebManager、InterScan Web Security Suite、PortalProtect、Trend Micro Control Manager、Trend Micro MobileSecurity、VSAPI、Trend Park、Trend Labs、Network VirusWall Enforcer、Trend Micro USB Security、InterScan Web Security Virtual Appliance、InterScan Messaging Security Virtual Appliance、Trend Micro Reliable Security License、TRSL、Trend Micro Smart Protection Network、SPN、SMARTSCAN、Trend Micro Kids Safety、Trend Micro Web Security、Trend Micro Portable Security、Trend Micro Standard Web Security、Trend Micro Hosted Email Security、Trend Micro Deep Security、ウイルスバスタークラウド、スマートスキャン、Trend Micro Enterprise Security for Gateways、Enterprise Security for Gateways、Smart Protection Server、Deep Security、ウイルスバスター ビジネスセキュリティサービス、SafeSync、Trend Micro InterScan WebManager SCC、Trend Micro NAS Security、Trend Micro Data Loss Prevention、Securing Your Journey to the Cloud、Trend Micro オンラインスキャン、Trend Micro Deep Security Anti Virus for VDI、Trend Micro Deep Security Virtual Patch、SECURE CLOUD、Trend Micro VDI オプション、おまかせ不正請求クリーンナップサービス、Deep Discovery、TCSE、おまかせインストール・バージョンアップ、Trend Micro Safe Lock、Deep Discovery Inspector、Trend Micro Mobile App Reputation、Jewelry Box、InterScan Messaging Security Suite Plus、おもいでバックアップサービス、おまかせ！スマホお探しサポート、保険&デジタルライフサポート、おまかせ！迷惑ソフトクリーンナップサービス、InterScan Web Security as a Service、Client/Server Suite Premium、Cloud Edge、Trend Micro Remote Manager、Threat Defense Expert、Next Generation Threat Defense、Trend Micro Smart Home Network、Retro Scan、is702、デジタルライフサポートプレミアム、Air サポート、Connected Threat Defense、ライトクリーナー、Trend Micro Policy Manager、フォルダシールド、トレンドマイクロ認定プロフェッショナルトレーニング、Trend Micro Certified Professional、TMCP、XGen、InterScan Messaging Security、InterScan Web Security、および Trend Micro Policy-based Security Orchestration は、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。

本ドキュメントに記載されている各社の社名、製品名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。

Copyright © 2017 Trend Micro Incorporated. All rights reserved.

P/N: CMEM77943/170818_JP_R1 (2018/09)

目次

はじめに

はじめに	9
ドキュメント	10
対象読者	11
ドキュメントの表記規則	11
用語	12

第 1 章 : Control Manager の概要

Control Manager について	16
主な機能と利点	16
Control Manager アーキテクチャ	18
Trend Micro Smart Protection Network への参加	20

第 2 章 : インストールの計画

インストール形態の決定	24
集中管理について	25
分散管理について	26
ネットワークトラフィックの計画	30
Control Manager のセットアップの流れ	31
テストインストール	31
テストインストールの準備	32
テストサイトの選定	33
ロールバック計画の作成	33
テストインストールの開始	33
テストインストールの評価	33
サーバの配置計画	34
管理計画について	34
Control Manager サーバの配置について	35
単一サーバによる運用	35

複数サーバによる運用	35
ネットワークトラフィックの計画	36
Control Manager のネットワークトラフィックについて	36
ネットワークトラフィックの発生元	38
ログのトラフィック	38
Trend Micro Management Communication Protocol ポリシー	39
製品登録によるトラフィック	40
ポリシーの配信	40
アップデートの配信	41
データベースの計画	42
データベースの推奨設定	42
ODBC ドライバ	44
認証	44
Web サーバの設定	44

第 3 章 : インストール

システム要件	48
Control Manager サーバをインストールする	49
Control Manager のインストールの流れ	51
すべての必須コンポーネントのインストール	51
インストール先の指定	55
製品とサービスのアクティベーション	57
Control Manager のセキュリティと Web サーバ設定を指定する	59
バックアップ設定の指定	62
通知の設定	63
データベース情報の設定	65
root アカウントをセットアップする	69

第 4 章 : アップグレードと移行

Control Manager にアップグレードする 7.0	72
アップグレードがサポートされているバージョン	72
バックアップ対象の Control Manager ファイル	72

アップグレードと移行のシナリオ	74
シナリオ 1: Control Manager 6.0 サーバを Control Manager 7.0 へ アップグレードする	74
シナリオ 2: エージェント移行ツールを使用した Control Manager 7.0 の新規インストールへ移行する	76
Control Manager 6.0 へロールバックする	76
Control Manager 7.0 サーバから Control Manager 6.0 へロール バックする	77
Control Manager エージェントの移行を計画する	78
一括アップグレード	78
段階的アップグレード	79
Control Manager データベースを移行する	80
Control Manager SQL データベースを他の SQL Server に移行す る	80

第 5 章 : インストール後のタスク

インストール後の自動タスク	84
サーバのインストールまたはアップグレードを確認する	84
製品のアクティベーション	86
Control Manager のアクティベーションおよびライセンス情 報	86
Active Directory 接続を設定する	87
ユーザアカウントの設定	89
最新コンポーネントのダウンロード	90
イベント通知を設定する	90

第 6 章 : Control Manager のアンインストール

Control Manager サーバをアンインストールする	92
Control Manager を手動でアンインストールする	93
Control Manager アプリケーションをアンインストールする	94

第 7 章 : Control Manager のシステムチェックリスト

サーバアドレスのチェックリスト	104
ポートのチェックリスト	105
Control Manager の入力規則	106
コアプロセスおよび設定ファイル	106
通信ポートおよびサービスポート	108

索引

索引	111
----------	-----

はじめに

はじめに


『Trend Micro™ Control Manager™ インストールおよびアップグレードガイド』によろこそ。このドキュメントでは、Control Manager サーバをインストールしたり、以前のインストールからアップグレードしたりするための要件と手順について説明しています。

このセクションの内容:

- 10 ページの「ドキュメント」
- 11 ページの「対象読者」
- 11 ページの「ドキュメントの表記規則」
- 12 ページの「用語」

ドキュメント

Control Manager のドキュメントには、次の情報が含まれます。

ドキュメント	説明
Readme ファイル	既知の問題の一覧が含まれます。また、オンラインヘルプや印刷ドキュメントにまだ収録されていない最新の製品情報が含まれる場合があります。
インストールおよびアップグレードガイド	Control Manager をインストールするための要件や手順を説明する PDF ドキュメント <div>  注意 マイナーリリースバージョン、Service Pack、またはパッチでは、インストールおよびアップグレードガイドを利用できない場合があります。 </div>
管理者ガイド	Control Manager と管理下の製品の設定および管理方法に加えて、Control Manager の概要と機能の説明が記載された PDF ドキュメント
オンラインヘルプ	操作手順、使用のアドバイス、および目的別の作業手順を提供する、WebHelp 形式でコンパイルされた HTML ファイル。このヘルプは、Control Manager コンソールからもアクセスできます。
Connected Threat Defense 入門	Control Manager とトレンドマイクロのさまざまな製品やソリューションを統合することで、標的型攻撃や高度な脅威を検出して分析し、被害が拡大する前に対処するための方法を説明した PDF ドキュメント
ウィジェットおよびポリシー管理ガイド	Control Manager でのダッシュボードウィジェットおよびポリシー管理の設定方法を説明した PDF ドキュメント
製品 Q&A	問題解決およびトラブルシューティング情報のオンラインデータベース。既知の製品の問題についての最新情報を提供します。製品 Q&A にアクセスするには、 https://success.trendmicro.com/jp/technical-support を参照してください。

PDF ドキュメントおよび Readme の最新バージョンをダウンロードするには、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://downloadcenter.trendmicro.com/index.php?regs=jp>

対象読者





このドキュメントは、次のユーザを対象としています。

- Control Manager の管理者: Control Manager のインストール、設定、および管理を担当し、高度なネットワークおよびサーバ管理の知識を持っていることが求められます。
- 管理下の製品の管理者: Control Manager と統合されているトレンドマイクロ製品の管理を担当し、高度なネットワークおよびサーバ管理の知識を持っていることが求められます。

ドキュメントの表記規則


このドキュメントでは、次の表記規則を使用しています。

表 1. ドキュメントの表記規則

表記	説明
 注意	設定上の注意
 ヒント	推奨事項
 重要	必須の設定や初期設定、および製品の制限事項に関する情報
 警告!	避けるべき操作や設定についての注意

用語

次の表は、Control Manager 付属のドキュメントで使用されている用語を示しています。

用語	説明
管理者 (または Control Manager 管理者)	Control Manager サーバを管理しているユーザ
エージェント	エンドポイントにインストールされている管理下の製品プログラム
コンポーネント	セキュリティリスクの検索、検出、および処理を実行するもの
Control Manager コンソール または管理コンソール	Control Manager のアクセス、設定、および管理を実行するための Web ベースのユーザインタフェース <div data-bbox="513 754 561 796"></div> 注意 統合された管理下の製品のコンソールは、管理下の製品名で示されます。たとえば、ウイルスバスター Corp.管理コンソールなどです。
管理下のエンドポイント	管理下の製品エージェントがインストールされているエンドポイント
管理下の製品	Control Manager と統合されるトレンドマイクロ製品
管理下のサーバ	管理下の製品がインストールされているエンドポイント
サーバ	Control Manager サーバがインストールされているエンドポイント
セキュリティリスク	ウイルス、不正プログラム、スパイウェア、グレーウェア、および Web からの脅威の総称
製品サービス	Microsoft 管理コンソール (MMC) を使用してホストされる Control Manager サービス
デュアルスタック	IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方のアドレスを持つエンティティ

用語	説明
IPv4 シングルスタック	IPv4 アドレスのみを持つエンティティ
IPv6 シングルスタック	IPv6 アドレスのみを持つエンティティ

第 1 章

Control Manager の概要

本章では、Trend Micro™ Control Manager™について説明し、その機能の概要を示します。

次のトピックがあります。

- [16 ページの「Control Manager について」](#)
- [16 ページの「主な機能と利点」](#)
- [18 ページの「Control Manager アーキテクチャ」](#)
- [20 ページの「Trend Micro Smart Protection Network への参加」](#)

Control Manager について

Trend Micro™ Control Manager™は、トレンドマイクロの製品およびサービスを、ゲートウェイ、メールサーバ、ファイルサーバ、およびデスクトップの各レベルで集中管理するための Web ベースのコンソールです。管理者は、ポリシー管理機能を使用して製品設定を行い、管理下の製品やエンドポイントに配信できます。Control Manager の Web ベースの管理コンソールにより、ネットワーク全体のウイルス対策およびコンテンツセキュリティ製品やサービスを 1 か所で監視できます。

Control Manager により、システム管理者は感染、セキュリティ違反、ウイルス/不正プログラムの検出ポイントなどの活動を監視し、報告できるようになります。システム管理者は、パターンファイル、検索エンジン、スパムメール判定ルールなどのコンポーネントをダウンロードし、ネットワーク全体に配信することにより、最新の保護を確実に行うことができます。Control Manager では、手動アップデートと予約アップデートの両方が可能です。さらに柔軟性を高めるため、Control Manager では、グループまたは個人として製品の設定や管理ができるようになっています。

主な機能と利点

Control Manager には、次の機能と利点があります。

機能	利点
オペレーションセンター	[オペレーションセンター] タブを使用すると、パターンファイルと情報漏えい対策のコンプライアンスのステータス、重大な脅威の検出、およびネットワーク上で解決済みのイベントと未解決のイベントに関する情報をすぐに確認できます。
ダッシュボード	[ダッシュボード] タブとウィジェットを使用すると、脅威の検出、コンポーネントのステータス、ポリシー違反などに関する、管理下の製品と Control Manager の情報を幅広く確認できます。
ユーザ/エンドポイントディレクトリ	Control Manager ネットワーク内のすべてのユーザとエンドポイント、およびセキュリティの脅威の検出に関する詳細情報が表示されます。

機能	利点
製品ディレクトリ	システム管理者は、管理下の製品に対して設定の変更を即座に配信したり、ウイルス/不正プログラムの大規模感染発生時であっても Control Manager 管理コンソールから手動検索を実行したりできます。
グローバルポリシー管理	システム管理者は、ポリシーを使用して単一の管理コンソールから管理下の製品とエンドポイントに製品を設定および配信し、組織内で一貫したウイルス/不正プログラム対策ポリシーおよびコンテンツセキュリティポリシーを実施できます。
ログ	単一の管理コンソールを使用して、個々の製品コンソールにログオンすることなく、登録済みのすべての管理下の製品の統合されたログを確認できます。
イベント通知	メール、Windows の Syslog、SNMP トラップ、アプリケーションによって通知が送信されるように Control Manager を設定することで、管理者はネットワークイベントを常に把握できます。
レポート	カスタムテンプレートまたはデフォルトテンプレートから包括的なレポートを作成すると、ネットワーク保護とセキュリティコンプライアンスの実現に必要な実用的な情報を入手できます。
コンポーネントアップデート	パターンファイル、スパムメール判定ルール、検索エンジン、およびその他のウイルス対策/コンテンツセキュリティコンポーネントを安全にダウンロードおよび配信して、すべての管理下の製品を最新の状態にします。
Connected Threat Defense	Control Manager では、トレンドマイクロのさまざまな製品やソリューションを統合することで、標的型攻撃や高度な脅威を検出して分析し、被害が拡大する前に対処することができます。
安全な通信インフラストラクチャ	Control Manager には、SSL (Secure Socket Layer) プロトコルに基づいた通信インフラストラクチャが使用されており、認証を使用してメッセージを暗号化することもできます。
役割ベースの管理	特定の管理コンソール権限を管理者に割り当て、特定のタスクを実行するために必要なツールと権限だけを提供することにより、Control Manager 管理コンソールへのアクセス権の付与と管理を実行します。

機能	利点
コマンド追跡	コマンド追跡を使用すると、Control Manager 管理コンソールを使用して実行されたコマンド (パターンファイルの更新やコンポーネントの配信など) が正常に完了したかどうかを継続的に監視できます。
ライセンス管理	新しいアクティベーションコードを配信するか、管理下の製品の既存のアクティベーションコードを再アクティベートします。
セキュリティクライアントのインストール	ウイルスバスター Corp.または Trend Micro Security (for Mac) のセキュリティクライアントのインストールパッケージを、Control Manager コンソールから直接作成してダウンロードします。

Control Manager アーキテクチャ

Trend Micro Control Manager は、トレンドマイクロの製品やサービスを 1 か所から集中管理する機能を提供します。Control Manager を使用することにより、企業におけるウイルス/不正プログラム対策ポリシーやコンテンツセキュリティポリシーを一貫して実施できます。

次の表は、Control Manager が使用するコンポーネントについて説明しています。

コンポーネント	説明
Control Manager サーバ	<p>エージェントから収集したすべてのデータを保存する格納先として機能します。Control Manager サーバでは次の機能が提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 管理下の製品の設定やログを保存する SQL データベース <p>Control Manager は、ログ、管理下の製品の情報、ユーザアカウント、ネットワーク環境、通知設定などのデータの保存に Microsoft SQL Server データベース (db_ControlManager.mdf) を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Control Manager の管理コンソールをホストする Web サーバ • メールメッセージでイベントに関する通知を送信するメールクライアント <p>Control Manager は、個々の受信者または受信者グループに Control Manager システム内で発生したイベントに関する通知を送信します。メール、SNMP トラップ、Syslog、または組織が通知の送信に使用する組織内のアプリケーションまたは業界標準のアプリケーションを使用して、イベントに関する通知を送信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ウイルス対策/コンテンツセキュリティ製品に関するレポートを生成するレポートサーバ <p>Control Manager レポートは、Control Manager システム上で発生したセキュリティの脅威およびコンテンツセキュリティ関連イベントのデータをオンラインで収集します。</p>
Trend Micro Management Communication Protocol (MCP)	<p>MCP は、Control Manager サーバと次世代エージェントをサポートする管理下の製品間の通信を処理します。</p> <p>MCP は管理下の製品と共にインストールされ、一方向または双方向通信を使用して Control Manager と通信します。MCP エージェントは、Control Manager に対して、指示とアップデートをポーリングします。</p>
Web サービスの統合通信	<p>Control Manager と管理下の製品との通信を可能にするエージェントレスの統合モデル</p>

コンポーネント	説明
Web ベースの管理コンソール	<p>このコンソールにより、管理者はインターネット接続と Web ブラウザを利用して、すべてのコンピュータから Control Manager を管理できるようになります。</p> <p>Control Manager 管理コンソールは、Microsoft Internet Information Server (IIS) を経由してインターネット上に公開され、Control Manager サーバのサービスを提供する Web ベースのコンソールです。管理者は、対応する Web ブラウザがインストールされた任意のコンピュータから、Control Manager システムを管理できるようになります。</p>
ウィジェットフレームワーク	<p>管理者はウィジェットフレームワークを使用して、Control Manager システムを監視するためにカスタマイズしたダッシュボードを作成できます。</p>

Trend Micro Smart Protection Network への参加

スマートフィードバックにより脅威に関する情報を継続的に収集して分析することで、保護の強化ができます。スマートフィードバックに参加すると、ご使用のデバイスから情報が収集され、新しい脅威の特定に役立ちます。ご使用のデバイスから収集する情報を、次に示します。

- ファイルのチェックサム
- アクセスされた Web アドレス
- サイズやパスなどのファイル情報
- 実行可能ファイルの名前



ヒント

スマートフィードバックに参加しない場合も、ご使用のデバイスは保護されます。参加は任意であり、いつでも参加の取り消しができます。トレンドマイクロ製品のすべてのお客様に対する全体的な保護の強化に役立つので、スマートフィードバックへの参加をお勧めします。

Smart Protection Network の詳細については、https://www.trendmicro.com/ja_jp/business/technologies/smart-protection-network.html を参照してください。

第 2 章

インストールの計画

本章では、Control Manager の配置計画の作成とテストインストールの実施について説明します。

次のトピックがあります。

- 24 ページの「インストール形態の決定」
- 31 ページの「Control Manager のセットアップの流れ」
- 31 ページの「テストインストール」
- 34 ページの「サーバの配置計画」
- 36 ページの「ネットワークトラフィックの計画」
- 38 ページの「ネットワークトラフィックの発生元」
- 41 ページの「アップデートの配信」
- 42 ページの「データベースの計画」
- 44 ページの「Web サーバの設定」

インストール形態の決定

Control Manager サーバをネットワーク環境に戦略的に分散して、ウイルス対策/コンテンツセキュリティ製品を適切に管理するためのインストール形態を決定します。

Control Manager のような企業規模のクライアント/サーバ統合管理製品をネットワークに導入するためには、入念な計画と評価が必要になります。

計画を容易に作成できるように、次の 2 種類のインストール形態を推奨します。

- 集中管理 — メインオフィスにある 1 つの Control Manager から、サーバ、管理下の製品、およびエンドポイントを管理します。組織が複数のオフィスを持っていても、拠点間に高速で信頼性の高いローカルおよびワイドエリアネットワーク接続がある場合は、集中管理を適用できます。
- 分散管理 — 地理的に離れた複数のメインオフィスがある組織において、複数の Control Manager サーバから管理します。

集中管理について

集中管理では、メインオフィスにある 1 つの Control Manager から、サーバ、管理下の製品、およびエンドポイントを管理します。

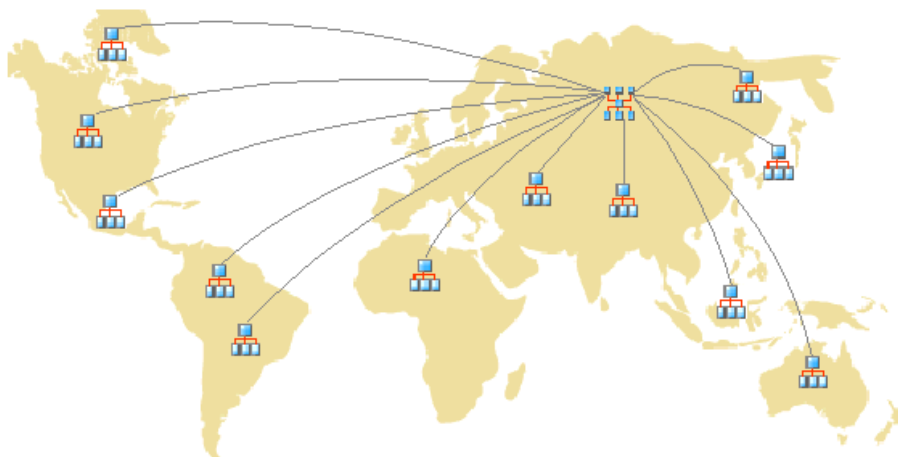


図 2-1. 単一の Control Manager サーバを使用した集中管理

Control Manager の集中管理を実施する前に、次のタスクを実行する必要があります。

1. 管理下の製品およびエンドポイントの数の決定
2. サーバ、管理下の製品、エンドポイントの最適な比率の計画
3. Control Manager サーバの指定

管理下の製品およびエンドポイントの数を決定する

Control Manager で管理しようとする、管理下の製品およびエンドポイントの構造の数を決定します。この情報は、最適な通信や管理のために配置すべき Control Manager サーバの種類と数、またそれらのサーバをネットワーク上のどこに配置するのかを決定する上で必要になります。

サーバと管理下の製品の最適な比率を計画する

1 台の Control Manager サーバで管理可能な、ローカルネットワーク上の管理下の製品およびエンドポイントの数を決定する上で最も重要な要素は、エージェントとサーバ間の通信です。

Control Manager システムの CPU および RAM の要件を決める際には、システム要件を参考にしてください。

Control Manager サーバを指定する

管理下の製品およびエンドポイントの数に基づいて、Control Manager サーバを決定および指定します。

さらに、Windows サーバの中から、Control Manager サーバとして設定するものを選択します。専用サーバをインストールする必要があるかどうかについても検討します。

Control Manager をインストールするサーバを選択するときは、次の点を考慮します。

- CPU 負荷
- サーバが実行している他の機能

アプリケーションサーバなどの他の用途にも使用されているサーバに Control Manager をインストールする場合、基幹アプリケーションやリソースを大量に消費するアプリケーションを実行中していないサーバへのインストールを推奨します。

各ネットワークの構成に応じて、上記以外に処置すべきことが発生する場合があります。

分散管理について

集中管理と同様に、関連するネットワーク情報を収集して、この情報が Control Manager サーバの分散管理にどのように関わるかを判別する必要があります。

それぞれのネットワークの特性を考慮して、Control Manager サーバの最適な数を決定してください。

DMZ や専用ネットワークを含む、さまざまな場所に Control Manager サーバを配置できます。インターネット上で Internet Explorer を使用して管理下の製品、エンドポイント、またはその他のサーバを管理し、Control Manager 管理コンソールにアクセスするには、公開されたネットワーク上の DMZ に Control Manager サーバを配置します。

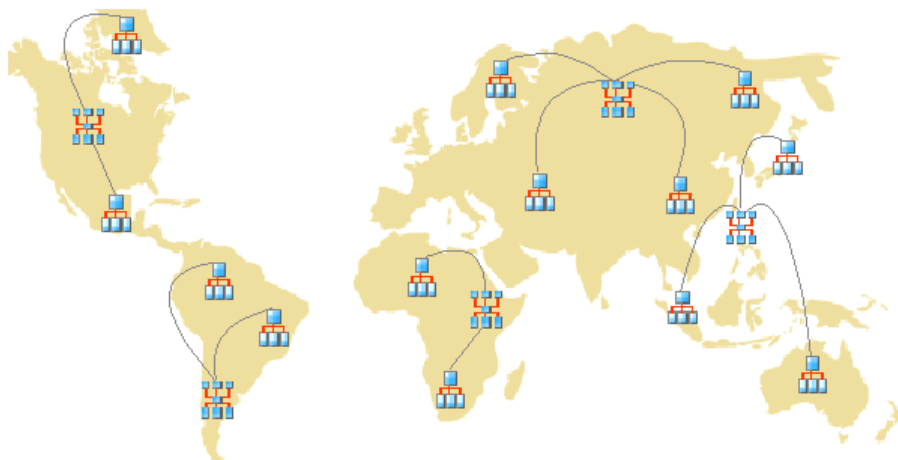


図 2-2. 複数の Control Manager サーバを使用した分散管理

分散管理においては次の点を考慮します。

- 管理下の製品、エンドポイント、またはサーバのグループ化
- 拠点数の決定
- 管理下の製品、エンドポイント、およびサーバの数の決定
- ネットワークトラフィックの計画
- Control Manager サーバのインストール場所の決定

管理下の製品をグループ化する

管理下の製品をグループ化する場合、次の点に注意してください。

表 2-1. 管理下の製品のグループ化に関する注意点

注意点	説明
社内のネットワークポリシーおよびセキュリティポリシー	社内のネットワークにアクセス権や共有権を適用する場合、社内のネットワークポリシーとセキュリティポリシーに従って管理下の製品、エンドポイント、およびサーバをグループ化します。
組織と機能	会社の組織上および機能上の分割に従って、管理下の製品、エンドポイント、およびサーバをグループ化します。たとえば、2 台の Control Manager サーバで製品グループとテスト担当グループを管理します。
所在地	管理下の製品、エンドポイント、およびサーバの位置が Control Manager サーバと管理下の製品、エンドポイント、またはサーバ間の通信に影響する場合には、グループ化の判断基準として地理的な位置を考慮します。
管理責務	管理下の製品、エンドポイント、およびサーバを、それぞれのシステムまたはセキュリティの担当者に合わせてグループ化します。これにより、グループ設定が可能になります。

拠点数の決定

Control Manager 配置内の拠点の数を決定します。この情報は、インストールが必要なサーバの数とサーバのインストール先を決定する上で必要になります。

以上の情報は、組織の WAN または LAN 構成図を基にします。

管理下の製品およびエンドポイントの数を決定する

Control Manager で管理しようとする、管理下の製品およびエンドポイントの総数についても知る必要があります。拠点ごとに、管理下の製品およびエンドポイントの総数に関するデータを収集することをお勧めします。この情報を取得できない場合は、概算の数でも役立ちます。この情報は、インストールするサーバの数を決定する上で必要になります。

サーバと管理下の製品の最適な比率を計画する

WAN 上に Control Manager を配置する場合、メインオフィスの Control Manager サーバによって、リモートオフィスの管理下の製品、エンドポイント、およ

びその他のサーバが管理されます。WAN を経由して Control Manager サーバに接続する場合、リモートオフィスの管理下の製品、エンドポイント、およびサーバがそれぞれ必要とするネットワーク帯域幅が異なる場合があります。Control Manager では、管理下の製品、エンドポイント、およびサーバのうち、早く接続したものが優先されます。

Control Manager システムの CPU および RAM の要件を決める際には、システム要件を参考にしてください。

Control Manager サーバを指定する

管理下の製品およびエンドポイントの数に基づいて、Control Manager サーバを決定および指定します。

さらに、Windows サーバの中から、Control Manager サーバとして設定するものを選択します。専用サーバをインストールする必要があるかどうかについても検討します。

Control Manager をインストールするサーバを選択するときは、次の点を考慮します。

- CPU 負荷
- サーバが実行している他の機能

アプリケーションサーバなどの他の用途にも使用されているサーバに Control Manager をインストールする場合、基幹アプリケーションやリソースを大量に消費するアプリケーションを実行していないサーバへのインストールを推奨します。

Control Manager サーバのインストール場所を決定する

クライアントの数とインストールが必要なサーバの数を把握できたので、次に Control Manager サーバのインストール先を決定します。メインオフィスにすべてのサーバをインストールする必要があるか、一部をリモートオフィスにインストールする必要があるかを判断します。

通信の速度を高め、管理下の製品、エンドポイント、およびサーバを最も効果的に管理するためには、環境内の特定の場所に戦略的にサーバを配置します。

- **メインオフィス** —メインオフィスとは、組織内の管理下の製品、エンドポイント、およびサーバの大部分が配置されている施設です。メインオフィスは、「本社」、「本店」などとも呼ばれます。メインオフィスは、他の場所に小規模なオフィスや支店を持つこともあります。ここでは、「リモートオフィス」と呼びます。



ヒント

メインオフィスにサーバをインストールすることをお勧めします。

- **リモートオフィス** —リモートオフィスは、大規模な組織の一部である小規模で専門的なオフィスのことで、メインオフィスとの WAN 接続があります。リモートオフィスの管理下の製品、エンドポイント、またはサーバから中央オフィスの Control Manager サーバにレポートが送信される場合、この Control Manager サーバへの接続が難しい場合があります。帯域幅の制限により、Control Manager サーバと適切に通信できない場合があります。

メインオフィスとリモートオフィス間のネットワーク帯域幅が、設定の変更の通知やステータスの送信といったルーチ的なクライアント/サーバ通信には十分でも、コンポーネント配信や他の作業には不十分である場合があります。

ネットワークトラフィックの計画

Control Manager では、サーバと管理下の製品/エンドポイントの通信時にネットワークトラフィックが発生します。組織のネットワークへの影響を最小限に抑えるように、Control Manager のネットワークトラフィックを計画します。

Control Manager 関連のネットワークトラフィックの発生源として、次のものがあります。

- 接続ステータス
- ログ
- Control Manager サーバへの管理下の製品の登録

初期設定では、Control Manager サーバには、リリース時の製品情報が含まれます。しかし、新バージョンの製品を Control Manager に登録するとき

に、そのバージョンが既存の製品プロファイルに対応しない場合は、その新しい製品の製品情報が Control Manager サーバにアップロードされます。

製品プロファイルがない新しいトレンドマイクロ製品の場合、Control Manager がこの製品を識別できるようにトレンドマイクロからアップデートが配信されます。

- 最新コンポーネントのダウンロードと配信
- ポリシーの配信
- 不審オブジェクトの同期

Control Manager のセットアップの流れ

Control Manager システムのセットアップには、次の作業に関連する複数の手順が必要です。

1. Control Manager システムのインストールの計画 (サーバの分散、ネットワークトラフィック、データストレージ、および Web サーバの検討)
2. Control Manager サーバのインストール



注意

Control Manager サーバのインストール時に、バックアップおよび復元ファイルの場所を指定します。

テストインストール

テストインストールによって、各機能がどのように動作するか、完全な導入後にどのようなレベルのサポートが必要になるかを判断するためのフィードバックを得ることができます。



ヒント

全面的にインストールする前に、限定的な環境で試験的にインストール (テストインストール) することを推奨します。

Control Manager のテストインストールにより、次のことを実現できます。

- Control Manager および管理下の製品に対する理解
- 社内のネットワークポリシーの策定または改善

テストインストールは、改良の必要な設定箇所を判断するために便利です。これにより、IT 部門またはインストールチームは導入手順を事前に実践して改善したり、組織の業務上の要件を満たすかどうかを確認する機会を得ることができます。

Control Manager のテストインストールを行うには、次のタスクを実行します。

- テストインストールの準備
- テストサイトの選定
- ロールバック計画の作成
- テストインストールの開始
- テストインストールの評価

テストインストールの準備

準備段階では、次の処理を完了します。

手順

1. テスト環境における、Control Manager サーバとエージェントの構成を決定します。
 - テスト構成におけるすべてのシステム間で TCP/IP 接続を確立させます。

- Control Manager システムから各エージェントシステムに、またその逆方向に ping コマンドを発行することにより、双方向の TCP/IP 通信を確認します。
2. どのような配置が環境に適しているかを知るために、さまざまな配置方法を評価します。
 3. テストインストールに使用するシステムチェックリストに記入します。
-

テストサイトの選定

実際の稼働環境に類似したテスト用のサイトを選定します。構成をできる限り実稼働環境に近い形に近づけます。

ロールバック計画の作成

インストール時またはアップグレード時に何か問題が発生した場合に備え、災害復旧計画またはロールバック計画を用意する必要があります (Control Manager 6.0 にロールバックする方法など)。このプロセスには、IT リソースだけでなく、ローカルな企業ポリシーも反映する必要があります。

テストインストールの開始

準備作業とシステムチェックリストの記入が完了したら、Control Manager サーバとエージェントをインストールし、テストインストールを開始します。

テストインストールの評価

試験の開始から終了までに確認された成功点と失敗点のリストを作成します。潜在的な問題を特定し、導入を成功させるための対応策を検討します。

このテスト評価計画は、実際のインストールおよび配置計画全体に組み込むことができます。

サーバの配置計画

サーバの配置を計画するときは次の点を考慮します。

- 管理モデル
- Control Manager サーバの配置
- 単一サーバによる運用
- 複数サーバによる運用

管理計画について

Control Manager の配信の初期段階で、Control Manager サーバへのアクセスを許可するユーザ数を決定しておきます。ユーザの数は、管理をどの程度集中させるかによって異なります。集中化の度合いは、ユーザ数と反比例するという法則を考慮してください。

次の管理モデルのいずれかに従います。

- 集中管理計画 —集中管理モデルでは、Control Manager へのアクセス権を必要最低限のユーザにのみ与えます。高度な集中管理においては、管理者は1人だけです。ネットワーク上のウイルス対策サーバやコンテンツセキュリティサーバはすべて、1人の管理者によって管理されます。

集中管理では、ネットワーク上のウイルス対策ポリシーやコンテンツセキュリティポリシーの管理が最も厳密になります。しかし、ネットワークが複雑になるに従って、管理者の作業負荷が大きくなり、1人では対応できなくなる可能性があります。

- 分散管理計画 —この計画は、システム管理者の責任範囲が明確に定義、確立されている大規模なネットワークの場合に便利です。たとえば、メールサーバ管理者がメール関連のウイルス対策製品を担当したり、ある支店の管理者がその支店全体のウイルス対策を担当するというように、製品別や拠点別に責任を分担します。

分散管理モデルを選択した場合でも、Control Manager の主となる管理者を設定する必要がありますが、管理者間で責任を分担することができます。

各管理者には、担当する製品や拠点の設定のみを表示したり変更できるように権限を与えます。

上記のいずれかの管理モデルを土台とし、製品ディレクトリと必要なユーザーアカウントを設定することによって Control Manager ネットワークを管理することができます。

Control Manager サーバの配置について

Control Manager は実際のインストール場所に関係なく製品を管理できます。したがって、1 つの Control Manager サーバからすべてのウイルス対策製品やコンテンツセキュリティ製品を管理することができます。

しかし、Control Manager ネットワークの管理を何台かのサーバ間で分割する方が好都合な場合もあります。各ネットワークの特徴に基づいて、Control Manager サーバの最適な数を決定する必要があります。

単一サーバによる運用

単一サーバによる運用は、中小規模の、1 つのサイトからなる企業に適しています。このトポロジでは、1 人の管理者による管理が容易になりますが、管理計画に応じて必要とされる追加の管理者アカウントを作成することも可能です。

さらに、この構成では、エージェントによるポーリング、データ転送、アップデート配信などのネットワークトラフィック負荷が 1 つのサーバ、およびこのサーバを収容する LAN に集中します。ネットワークの規模が拡大すると、パフォーマンスへの影響も大きくなります。

複数サーバによる運用

複数の拠点からなる大規模な企業では、Control Manager サーバを地域ごとに設置して、ネットワーク負荷を分散しなければならない場合があります。

Control Manager システムで発生するトラフィックの詳細については、[36 ページの「Control Manager のネットワークトラフィックについて」](#)を参照してください。

ネットワークトラフィックの計画

ネットワークへの Control Manager の影響を最小限に抑える計画を作成するには、Control Manager システムで発生するトラフィックについて理解することが重要です。

ここでは、Control Manager システムで発生するネットワークトラフィックを理解し、ネットワークに負荷のかからない運用を計画するために必要な情報について説明します。さらに、トラフィックの発生間隔に関する項では、Control Manager システム上にトラフィックを頻繁に生じさせる発生元について説明します。

Control Manager のネットワークトラフィックについて

ネットワークへの Control Manager の影響を最小限に抑える計画を作成するには、Control Manager システムで発生するトラフィックについて理解することが重要です。

ネットワークトラフィックの発生元

Control Manager のネットワークトラフィックを生じさせる発生元を次に示します。

- ログのトラフィック
- MCP ポリシー
- 製品登録
- 最新コンポーネントのダウンロードと配信
- ポリシー設定の配信

トラフィックの発生間隔

Control Manager ネットワークでは、次の要因によりトラフィックが頻繁に発生します。

- 管理下の製品によって生成されたログ
- MCP ポーリングおよびコマンド

ログ

管理下の製品は、それぞれのログの設定に従ったさまざまな間隔で Control Manager にログを送信します。

管理下の製品エージェントの接続ステータス

初期設定では、管理下の製品のエージェントは 60 分ごとに接続ステータスメッセージを送信します。管理者はこの値を 5 分から 480 分までの間で指定することができます。コミュニケーター接続ステータスの実行間隔を指定するときは、ステータス情報の更新頻度と、システムリソースの消費の抑制の両方を考慮する必要があります。

多くの場合、初期設定で十分な結果が得られますが、これらの設定を変更する必要がある場合には、次の点を考慮してください。

- 長い間隔の接続ステータス (60 分以上) — 接続ステータスの実行間隔を長く設定するほど、Control Manager サーバの管理コンソールにステータスが表示されるまでに発生するイベントの数が多くなります。

たとえば、次の送信時間に達するまでの間にエージェントとの接続の問題が解決された場合、ステータスが「停止中」または「異常」と表示されていたとしても、エージェントとの通信が回復している可能性があります。

- 短い間隔の接続ステータス (60 分未満) — 接続ステータスの実行間隔を短く設定すると、Control Manager サーバの管理コンソールに、より最新のステータスが表示されるようになります。ただし、短い間隔の接続ステータスの場合、消費されるネットワークの帯域幅が増加します。



注意

間隔を 15 分以下に設定したい場合には、まず既存のネットワークトラフィックを調べて、ネットワーク帯域幅の使用が増えることによる影響について理解する必要があります。

ネットワークプロトコル

Control Manager の通信は、主に UDP プロトコルと TCP プロトコルに基づいて行われます。

ネットワークトラフィックの発生元

ログのトラフィック

Control Manager サーバと管理下の製品間には、常に「製品ログ」によるネットワークトラフィックが発生します。製品ログは、各管理下の製品が Control Manager サーバに対して定期的に送信するログです。

表 2-2. Control Manager ログのトラフィック

ログの種類	含まれる情報
ウイルス/スパイウェア/グレーウェアのログ	検出されたウイルス/不正プログラム、スパイウェア/グレーウェアなどのセキュリティ上の脅威
セキュリティログ	コンテンツセキュリティ製品から報告された違反
Web セキュリティ	Web セキュリティ製品から報告された違反
イベントログ	コンポーネントのアップデート、一般的なセキュリティ違反などのイベント
ステータス	管理下の製品の環境。この情報は製品ディレクトリのステータス概要ページに表示されます。
ネットワークウイルス	ネットワークパケット内で検出されたウイルス
パフォーマンス測定	旧バージョンの製品で使用
URL アクセス	Web セキュリティ製品から報告された違反
セキュリティ違反	Network VirusWall 製品から報告された違反

ログの種類	含まれる情報
セキュリティ遵守	Network VirusWall 製品から報告されたエンドポイントのセキュリティ遵守
セキュリティ統計	Network VirusWall 製品から計算、報告されたクライアントのセキュリティ遵守数とセキュリティ違反数の差異
エンドポイント	Web セキュリティ製品から報告された違反
情報漏えい対策ログ	情報漏えい対策ポリシー違反に関連した検出
挙動監視ログ	悪意あるアクティビティを挙動に基づいて検出
ネットワーク検査ログ	IP アドレスまたはドメインの検出を含む
機械学習型検索ログ	機械学習型検索の検出
仮想アナライザログ	不審なサンプルの送信について仮想アナライザによって報告された検出
ファイルハッシュ検出ログ	ファイルまたはファイル SHA-1 不審オブジェクトによってトリガされた検出

Trend Micro Management Communication Protocol ポリシー

Trend Micro Management Communication Protocol (MCP) は、Control Manager の通信コンポーネントです。MCP は次のポリシーを適用します。

- MCP 接続ステータス —Control Manager への MCP 接続ステータスにより、Control Manager に最新の情報が表示されるようにし、管理下の製品と Control Manager サーバ間の接続が正常に保たれます。
- MCP コマンドポーリング — MCP エージェントが Control Manager へのコマンドポーリングを開始すると、Control Manager はエージェントに管理下の製品のログを送信するよう通知するか、管理下の製品にコマンドを発行します。また、Control Manager ではコマンドポーリングを、Control Manager と管理下の製品の間の接続を確認するパッシブな接続ステータスとして解釈します。

製品登録によるトラフィック

製品情報は、特定の製品をどのように管理するかに関する情報を Control Manager に提供します。管理下の製品をはじめて Control Manager サーバに登録するときに、製品情報はサーバに送信されます。

製品情報は製品ごとにあり、通常、複数のバージョンがある製品の場合、バージョン別の製品情報があります。製品情報には次の情報が含まれます。

- カテゴリ (ウイルス対策など)
- 製品名
- 製品バージョン
- メニューバージョン
- ログ形式
- コンポーネント情報 — この製品で使用されるコンポーネントの情報 (パターンファイルなど)
- コマンド情報

初期設定では、Control Manager サーバには、Web サービスの統合通信を使用する管理下の製品のすべての製品プロファイルが含まれています。Trend Micro Management Communication Protocol (MCP) を使用する管理下の製品は、Control Manager サーバへの初期登録中に製品プロファイルをアップロードします。

ポリシーの配信

Control Manager では、管理下の製品およびエンドポイントへのポリシー設定の配信時にネットワークトラフィックが発生します。このトラフィックの発生元は次のとおりです。

- 定期的なポリシー適用

Control Manager では、24 時間ごとに管理下の製品およびエンドポイントにポリシー設定が適用されます。

- 配信済みの情報

1 つのポリシーには、各エンドポイントのグローバル一意識別子 (GUID) 情報と設定情報が含まれます。50,000 の対象と設定一式が含まれる 1 つのポリシーによって、最大 1.8MB のネットワークトラフィックが発生する可能性があります。

アップデートの配信

Control Manager のアップデート作業は、次の 2 つの手順に分かれます。

1. トレンドマイクロから最新コンポーネントを取得します。

Control Manager で、トレンドマイクロのアップデートサーバから直接または別の場所からコンポーネントをダウンロードできます。

2. これらのコンポーネントを管理下の製品に配信します。

Control Manager で、次のコンポーネントを管理下の製品に配信できます。

- パターンファイル/クリーンアップテンプレート
- 各種エンジン (検索エンジン、ダメージクリーンアップエンジン)
- スпамメール判定ルール
- ウイルスバスター Corp.プラグインマネージャプラグインプログラム
- 製品プログラム (製品によって異なる)



ヒント

トレンドマイクロでは、管理下の製品が新たなウイルスの脅威に対応できるよう、それらのコンポーネントを定期的にアップデートすることをお勧めします。製品プログラムのアップデートについては、それぞれの製品のマニュアルを参照してください。

管理下の製品へのコンポーネントの配信によって、帯域幅が多く消費されます。可能な場合は、ネットワークへの影響が最小限に抑えられる時間帯に配信することが重要です。

配信計画を使用して、コンポーネントをスケジュールに従って配信することができます。

また、Control Manager サーバと管理下の製品とのネットワーク接続がアップデートに対処できることを確認します。接続は、ネットワークに必要な Control Manager サーバの数を決定する際に考慮される要素です。

データベースの計画

Control Manager のデータは SQL データベースに格納する必要があります。Control Manager がインストールされているサーバに専用のデータベースがない場合、インストールプログラムから Microsoft SQL Express をインストールするためのオプションが提示されます。ただし、SQL Express の制約により、大規模なネットワークでは SQL Server を使用する必要があります。



注意

Control Manager は SQL Server へのアクセスに、SQL Server 認証と Windows 認証を使用します。

データベースの推奨設定

ここでは、1 台のコンピュータに Control Manager と SQL Server の両方をインストールする場合の管理者向けの推奨事項を説明します。

- 実稼働環境
 - 4GB 以上のメモリを持つコンピュータを使用します。



注意

Control Manager のインストールに必要な最小メモリは 4GB ですが、推奨値は 8GB です。メモリが 4GB 未満のコンピュータには、Control Manager と SQL Server の両方の同時インストールは推奨しません。

- SQL Server で使用される最大メモリを設定します。

Control Manager とシステムで使用するためのメモリを少なくとも 4GB 残します。

たとえば、コンピュータのメモリが 8GB の場合、SQL Server の最大メモリ使用量を 4GB に設定します。この場合、Control Manager とシステムで 4GB のメモリを使用できます。

**注意**

SQL Server のメモリ使用量を設定する方法の詳細については、[http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms191144\(v=sql.105\).aspx](http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms191144(v=sql.105).aspx) を参照してください。

- テスト環境

Control Manager とシステムで使用するためのメモリを少なくとも 2GB 残します。

**注意**

SQL Server のメモリ使用量を設定する方法の詳細については、[http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms191144\(v=sql.105\).aspx](http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms191144(v=sql.105).aspx) を参照してください。

**ヒント**

- 1,000 を超える製品 (ウイルスバスター Corp.クライアントおよび ServerProtect 一般サーバを含む) を管理する Control Manager では、専用の SQL Server を使用することを推奨します。
 - Control Manager と SQL Server が異なるコンピュータにインストールされている場合は、両方のコンピュータに同じタイムゾーンを設定します。
 - Microsoft SQL Server Standard または Enterprise Edition の使用を強く推奨します。SQL Express はテスト目的には適していますが、実稼働環境には向いていません。
-

ODBC ドライバ

Control Manager は、Microsoft SQL Server 通信および Transport Layer Security (TLS) 1.2 をサポートするために、Open Database Connectivity (ODBC) Driver 13 for SQL Server をインストールします。

認証

Control Manager は、SQL データベース認証と Windows 認証の両方をサポートします。

Web サーバの設定

Control Manager セットアッププログラムの [Web サーバ情報の指定] 画面では、Web サーバをホスト名、FQDN、IP アドレスのいずれかで指定します。Web サーバ名を決定する上での考慮事項は、次と同じです。

- ホスト名または FQDN を使用すると、Control Manager サーバの IP アドレスの変更に容易に対応できますが、システムは DNS サーバに依存するようになります。
- IP アドレスを使用する場合、固定 IP アドレスが必要です。

この Web サーバアドレスを使用し、コンポーネントのアップデートサーバを識別します。この情報は SystemConfiguration.xml ファイルに保存され、Control Manager サーバからアップデートを取得できるようにエージェントへの通知の一部に含まれます。アップデートサーバに関連する設定は次のように記述されます。

```
Value=http://<Web サーバのアドレス>:<ポート>/TvcsDownload/  
ActiveUpdate/<コンポーネント>
```

ここでは次を意味します。

- ポート —アップデート元に接続するポート。Web サーバアドレス画面で指定することもできます。初期設定のポート番号は 80 です。
- TvcsDownload/ActiveUpdate —Control Manager セットアッププログラムは、対応するこの仮想ディレクトリを IIS 指定の Web サイトに作成します。

- コンポーネント — アップデートされたコンポーネントに応じて異なります。たとえば、パターンファイルがアップデートされる場合、ここには次の値が含まれます。

Pattern/Vsapixxx.zip

「Pattern」は、Control Manager サーバの¥¥. . .Control Manager¥WebUI¥download¥activeupdate¥pattern フォルダに対応します。

「Vsapi.zip」は圧縮形式でのウイルスパターンです。

第 3 章

インストール

本章では、Trend Micro Control Manager (以下、Control Manager) サーバのインストール方法について説明します。また、インストール後の設定や、製品のアクティベーション手順についても説明します。

次のトピックがあります。

- [48 ページの「システム要件」](#)
- [49 ページの「Control Manager サーバをインストールする」](#)

システム要件

Control Manager 7.0 のインストールプログラムを実行するには、Windows の特定の機能や更新プログラムが必要です。

- 新規インストールのシステム要件の一覧は、次のリンクを参照してください。

www.go-tm.jp/tmcm/req

- 管理下の製品とビジネスセキュリティクライアントの詳細なシステム要件については、管理下の製品のドキュメントを参照してください。

次の表は、Control Manager インストールプログラムの実行に最低限必要な要件をまとめたものです。



注意

- 次の Windows の更新プログラムは Windows Update では自動的にインストールされませんが、Control Manager をインストールする前に各 OS に必須です。
 - KB2999226
 - KB2919355
 - KB2919442
 - 次の Windows の更新プログラムは、個々の OS で TLS 1.2 をサポートする場合に限り必要です。
 - KB2973337
 - KB2975331
 - KB3000850
-

OS:	エディション	SERVICE PACK	システム要件		
			WINDOWS の機能		WINDOWS の更新プログラム
Windows Server 2008 (32 ビット/64 ビット)	Standard Enterprise Datacenter	SP2	.NET Framework 4.6.1 以上 メッセージキュー Microsoft IIS ASP Microsoft IIS CGI IIS Windows 認証 IIS 6 管理互換	ASP.NET .NET Extensibility	N/A
Windows Server 2008 R2 (64 ビット)		SP1			KB2973337
Windows Server 2012 (64 ビット)	Standard Datacenter	N/A		ASP.NET 4.5 .NET Extensibility 4.5	KB2999226 KB2975331
Windows Server 2012 R2 (64 ビット)					KB2919355 KB2919442 KB3000850
Windows Server 2016 (64 ビット)				ASP.NET 4.6 .NET Extensibility 4.6	N/A

Control Manager サーバをインストールする

Control Manager のインストール計画を作成したら、Control Manager サーバのインストールを開始できます。

104 ページの「サーバアドレスのチェックリスト」を確認してください。このリストにはインストールに必要なシステム関連情報を記録することができます。

インストールには次の情報が必要です。

- 関連するサーバアドレスとポート情報
- Control Manager レジストレーションキー
- サーバ/エージェント間の通信で使用するセキュリティのレベル



注意

インストールには、8.3 形式のファイル名を作成する必要があります。Control Manager のインストールを成功させるにはこの機能を有効化します。

詳細については、<http://esupport.trendmicro.com/solution/ja-jp/1313755.aspx> を参照してください。

データベースに関連して、あらかじめ次の情報を確認してください。

- Control Manager で SQL Server を使用するかどうか。Control Manager サーバと異なるサーバに SQL Server がある場合は、そのサーバの IP アドレス、FQDN (Fully Qualified Domain Name)、または NetBIOS 名が必要です。SQL Server のインスタンスが複数存在する場合は、使用するインスタンスについての情報が必要です。
- Control Manager で使用する SQL データベースの認証情報
 - ユーザ名
 - パスワード



注意

Control Manager では SQL Server へのアクセスに、Windows 認証または SQL Server 認証を使用できます。

- Control Manager が扱う管理下の製品の数。サーバ上に SQL Server が検出されない場合、Control Manager は SQL Server 2016 Express をインストールします。SQL Server Express では、一定の数の接続しか扱うことができません。

Control Manager のインストールの流れ

Control Manager をインストールするには、次の手順を実行する必要があります。

1. すべての必須コンポーネントをインストールします。
2. インストール先を指定します。
3. 製品およびサービスを登録し、アクティベーションを実行します。
4. Control Manager のセキュリティを指定し、Web サーバを設定します。
5. バックアップ設定を指定します。
6. 必要に応じて通知を設定します。
7. データベース情報を設定します。
8. root アカウントを設定します。



ヒント


新規インストールではなく、バージョン 7.0 にアップグレードすることをお勧めします。

すべての必須コンポーネントのインストール

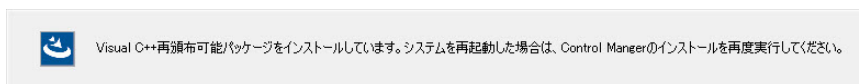
手順

1. ソフトウェアをトレンドマイクロの最新版ダウンロードサイトからダウンロードしてください。ダウンロードしたコンピュータ上のフォルダに移動し、インストーラを実行してください。
2. インストールプログラムにより、システム上の必須コンポーネントのチェックが行われます。

インストールプログラムによりサーバ上で次のコンポーネントが検出されなかった場合、見つからないコンポーネントをインストールするよう指示するダイアログボックスが表示されます。

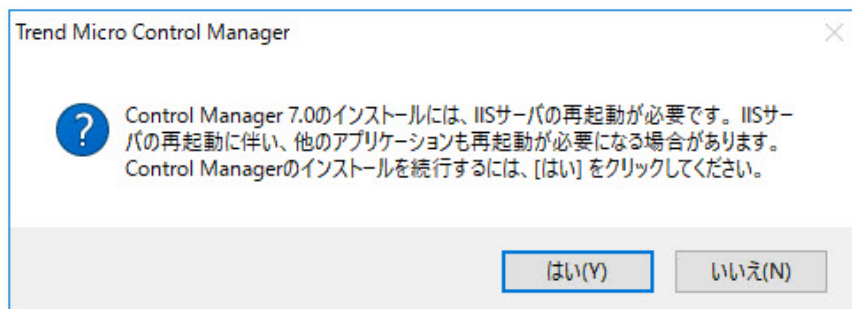
コンポーネント	説明
Visual C++ 2005 SP1 再頒布可能パッケージ	Control Manager インストールパッケージに含まれます。
Visual C++ 2008 SP1 再頒布可能パッケージ	Control Manager インストールパッケージに含まれます。
Visual C++ 2012 アップデート 4 再頒布可能パッケージ	Control Manager インストールパッケージに含まれます。
Visual C++ 2015 再頒布可能パッケージ	Control Manager インストールパッケージに含まれます。
PHP 7.1	Control Manager インストールパッケージに含まれます。 <div>  重要 サーバで前のバージョンの PHP を使用している場合は、それをアンインストールしてから Control Manager のインストールを開始してください。そうすれば、Control Manager によってインストール処理中に PHP 7.1 がインストールされます。 </div>

- すべての未検出のコンポーネントのインストール確認ダイアログボックスが表示されます。



- インストールを続行するには [はい] をクリックします。

別の確認ダイアログボックスが表示されます。



5. インストールを続行するには [はい] をクリックします。
[ようこそ] 画面が表示されます。



図 3-1. [ようこそ] 画面

インストールプログラムにより、システム上に現在あるコンポーネントのチェックが行われます。インストールを進める前に、Microsoft 管理コンソール (MMC) のすべてのインスタンスを停止します。

6. [次へ] をクリックします。

ソフトウェア使用許諾契約書の画面が表示されます。



図 3-2. 契約事項の同意

7. 契約事項に同意する場合は [はい] を、同意しない場合は [いいえ] をクリックします。[いいえ] をクリックした場合、インストールはこの時点で中止されます。[はい] をクリックすると、インストールが続行されます。
8. Control Manager を Windows 2008 R2 (またはそれ以前) にインストールする場合、検出されたコンポーネントの一覧が表示されます。

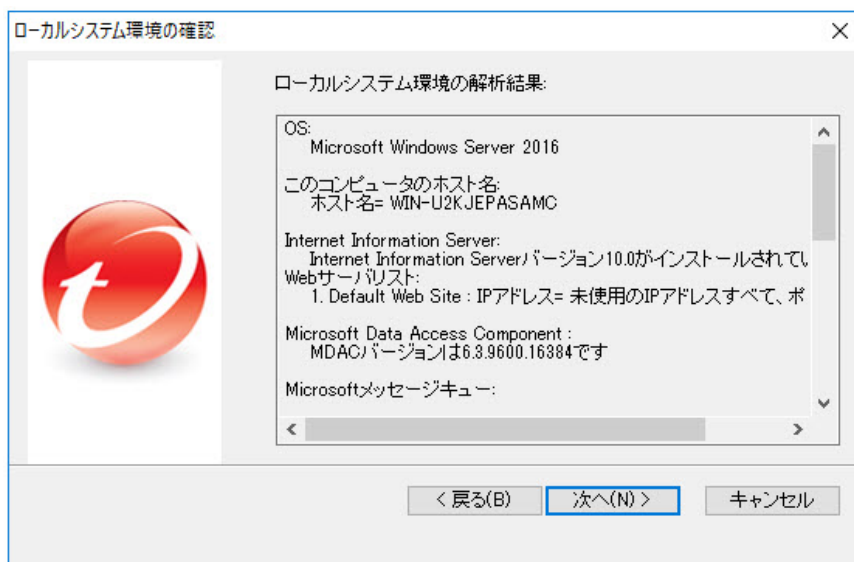


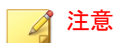
図 3-3. インストール先のシステム環境情報の表示

9. [次へ] をクリックします。

インストールにより、システム上の既存の SQL Server のチェックが行われます。

既存の SQL がない場合、Microsoft SQL Server 2016 Express SP1 をインストールするよう指示するダイアログボックスが表示されます。

インストール先の指定



注意

インストールには、8.3 形式のファイル名を作成する必要があります。Control Manager のインストールを成功させるにはこの機能を有効化します。詳細については、<http://esupport.trendmicro.com/solution/ja-jp/1313755.aspx> を参照してください。

手順

1. [次へ] をクリックします。

[インストール先フォルダの選択] 画面が表示されます。

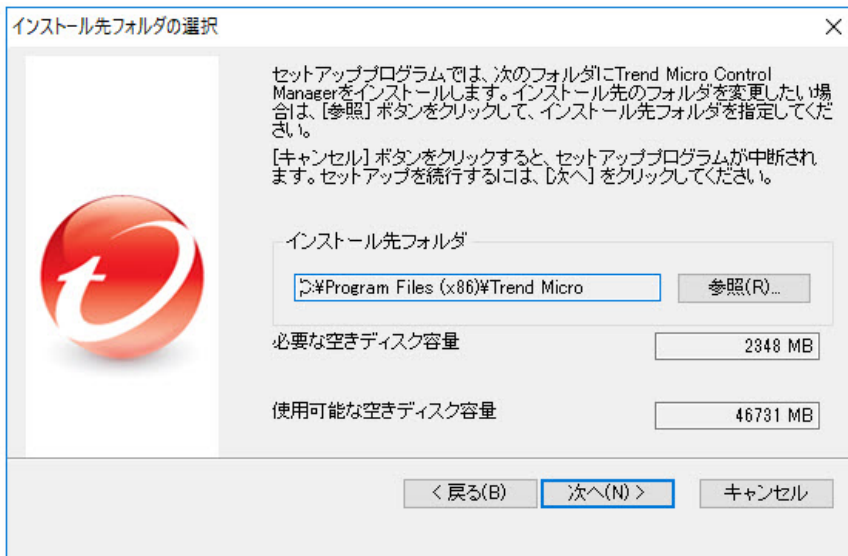
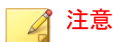


図 3-4. インストール先フォルダの選択

2. Control Manager のインストールディレクトリを指定します。別の場所を指定するには、[参照] をクリックします。



注意

- 64 ビット OS の初期設定では、C:\Program Files (x86)\Trend Micro にインストールされます。
- 初期設定以外のディレクトリを選択した場合でも、Control Manager の通信 (MCP) 関連のファイルは Program Files フォルダ内の既定の場所にインストールされます。

製品とサービスのアクティベーション

手順

1. [次へ] をクリックします。

[製品のアクティベーション] 画面が表示されます。

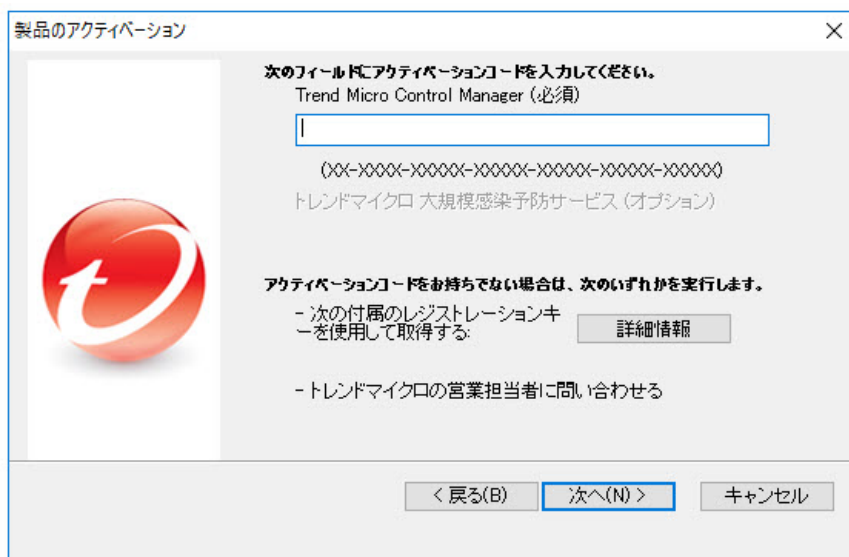


図 3-5. Control Manager およびサービスを有効にするアクティベーションコードの入力

2. Control Manager および購入したその他の追加サービスのアクティベーションコードを入力します。オプションのサービスのアクティベーションは、Control Manager コンソールから実行することもできます。Control Manager およびその他のサービスの全機能を利用するには、アクティベーションコードを取得して、ソフトウェアやサービスのアクティベーションを実行する必要があります。
3. [次へ] をクリックします。

[トレンドマイクロスマートフィードバック] 画面が表示されます。

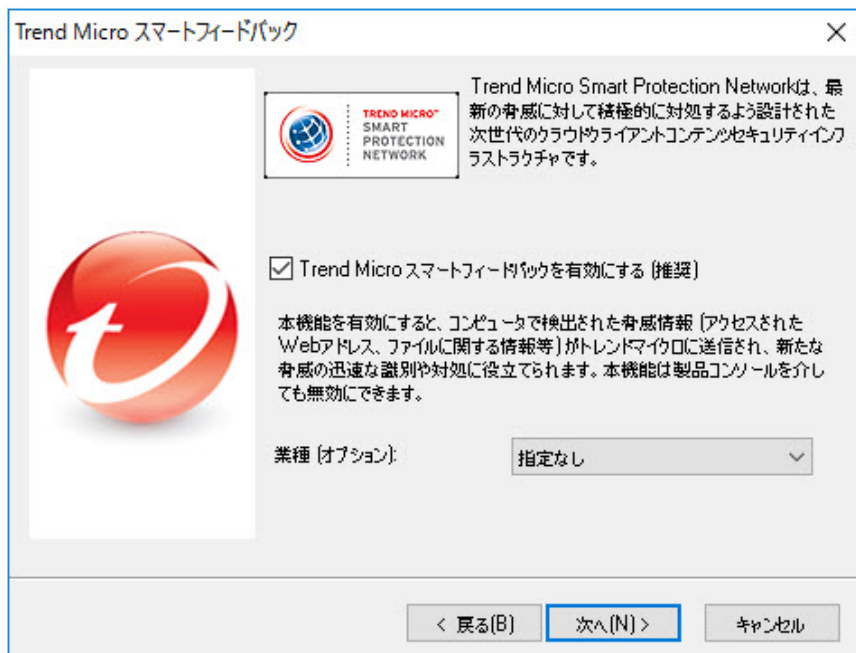


図 3-6. Smart Protection Network の設定

4. Smart Protection Network プログラムに情報を送信するには、[トレンドマイクロスマートフィードバックを有効にする (推奨)] を選択します。情報を送信することを選択した場合、Control Manager は匿名の脅威情報を Trend Micro Smart Protection Network サーバに送信します。これにより、ネットワークで積極的な予防措置を講じることができます。Control Manager 管理コンソールから、いつでも情報の送信を停止することができます。

Control Manager のセキュリティと Web サーバ設定を指定する

手順

1. [次へ] をクリックします。

[セキュリティレベルとホストアドレスの選択] 画面が表示されます。



図 3-7. セキュリティレベルの選択

2. [セキュリティレベル] リストから、Control Manager がエージェントと通信する際のセキュリティレベルを選択します。次のオプションがあります。
 - 高 — 強固な暗号化と認証 — Control Manager と管理下の製品との間のすべての通信に認証付きの 128 ビット暗号化を使用します。Control Manager と管理下の製品との間の通信として最も安全な通信方法です。

- 中 — 強固な暗号化 — 128 ビット暗号化がサポートされる場合は、Control Manager と管理下の製品との間のすべての通信に 128 ビット暗号化を使用します。これは、Control Manager インストール時の初期設定です。
 - 低 — 普通の暗号化 — Control Manager と管理下の製品との間のすべての通信に 40 ビット暗号化を使用します。Control Manager と他の製品との間の通信として最も安全性が低い通信方法です。
3. Control Manager と通信するエージェントのホストアドレスを選択します。
- FQDN またはホスト名
 - a. [完全修飾ドメイン名 (FQDN) またはホスト名] を選択します。
 - b. 表示されているフィールドで、FQDN またはホスト名を選択または入力します。
 - IP アドレス
 - a. [IP アドレス] を選択します。

初期設定で、[IP アドレス] フィールドには IP v 4 アドレスが表示されます。ユーザが IPv6 シングルスタックサーバに Control Manager をインストールした場合、[IP アドレス] フィールドには、ローカル IPv4 アドレス (127.0.0.1) が表示されます。
4. [次へ] をクリックします。
- [Web サーバ情報の指定] 画面が表示されます。

[Web サーバ情報の指定] 画面の設定では、通信のセキュリティ設定とサーバの識別方法を指定します。



図 3-8. Web サーバ情報の指定

5. [Web サイト] リストから、Control Manager にアクセスする Web サイトを選択します。
6. [IP アドレス] リストから、Control Manager の管理コンソールで使用する、FQDN/ホスト名、IPv4、または IPv6 アドレスを選択します。この設定では、Control Manager の通信システムにおける Control Manager サーバの識別方法を指定します。セットアッププログラムは、サーバの FQDN と IP アドレスの両方を検索し、検出された場合は、これらをフィールドに表示します。

サーバで複数のネットワークインタフェースカードが使用されている場合、またはサーバに複数の FQDN が割り当てられている場合は、その名前と IP アドレスが表示されます。リストを使用して、最適なアドレスまたは名前を選択します。

サーバの識別にホスト名または FQDN を使用する場合、製品がインストールされているコンピュータ上でこの名前を解決できることを確認し

てください。解決できない場合、製品は Control Manager サーバと通信することができません。

7. [セキュリティレベル] リストで、Control Manager の通信のセキュリティレベルを次のいずれかから選択します。
- 高 — HTTPS のみ — すべての Control Manager の通信に HTTPS プロトコルを使用します。Control Manager と他の製品との間の通信として最も安全な通信方法です。
 - 中 — HTTPS が主 — HTTPS がサポートされている場合は、すべての Control Manager の通信に HTTPS プロトコルを使用します。HTTPS が利用できない場合は、エージェントは HTTP を使用します。これは、Control Manager インストール時の初期設定です。
 - 低 — HTTP が基本 — すべての Control Manager の通信に HTTP プロトコルを使用します。Control Manager と他の製品との間の通信として最も安全性が低い通信方法です。

**注意**

[低 — HTTP が基本] を選択した場合、および IIS 管理コンソールで SSL ポート値を指定していない場合は、[SSL ポート] で Control Manager の通信に使用するアクセスポートを指定します。

バックアップ設定の指定

手順

1. [次へ] をクリックします。

[インストール先の選択] 画面が表示されます。

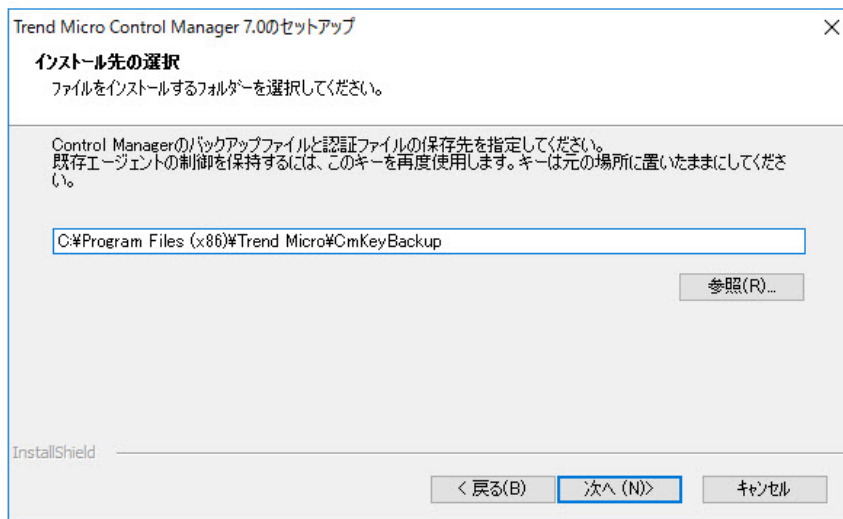


図 3-9. バックアップファイルと認証ファイルの保存場所の選択

2. Control Manager のバックアップファイルと認証ファイルの保存先を指定してください。別の場所を指定するには、[参照] をクリックします。



注意

64 ビット OS の初期設定では、C:\Program Files (x86)\Trend Micro\CmKeyBackup にインストールされます。

詳細については、72 ページの「バックアップ対象の Control Manager ファイル」参照してください。

通知の設定

手順

1. [次へ] をクリックします。

[メッセージルーティングパスの指定] 画面が表示されます。

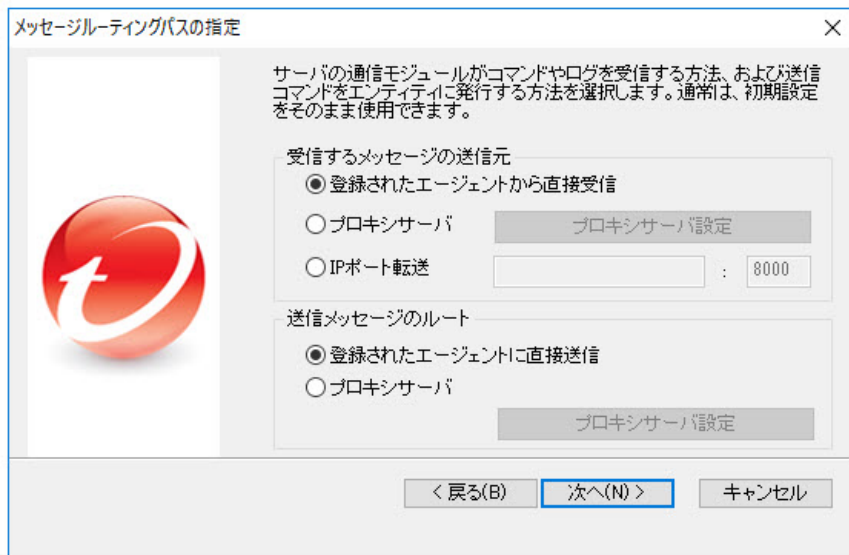


図 3-10. メッセージまたは要求のルートの定義

2. 送信メッセージと受信メッセージの送信経路を指定します。

この設定によって、Control Manager は既存のセキュリティシステムを使用できるようになります。適切な送信経路を選択してください。

注意

メッセージの送信経路を設定できるのはインストール中だけです。インストール中に設定するプロキシはインターネット接続で使用するプロキシ設定とは関係ありませんが、初期設定では同じ設定が使用されます。

- 受信するメッセージの送信元
 - 登録されたエージェントから直接受信: エージェントは到着したメッセージを直接受信します。
 - プロキシサーバ: メッセージの受信にプロキシサーバを使用する場合は、このオプションを選択します。

- Ip ポート転送:: Control Manager でファイアウォールの IP ポート転送機能が使用されるように設定します。ファイアウォールサーバの FQDN、IP アドレス、または NetBIOS 名を指定してから、通信のために開かれているポート番号を入力します。
- 送信メッセージのルート
 - 登録されたエージェントに直接送信: 送信メッセージはエージェントに直接送信されます。
 - プロキシサーバ: 送信メッセージはプロキシサーバ経由で送信されます。

データベース情報の設定

手順

1. [次へ] をクリックします。

[Control Manager データベースのセットアップ] 画面が表示されます。

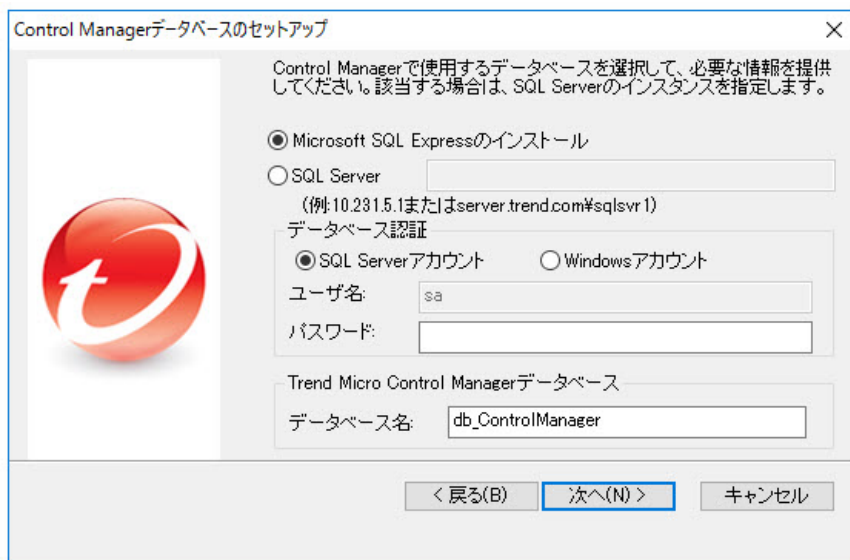


図 3-11. Control Manager データベースを選択します。

2. Control Manager で使用するデータベースを選択します。
 - Microsoft SQL Express のインストール —SQL Server がこのコンピュータにインストールされていない場合、このオプションが自動的に選択されます。データベースには必ずパスワードを指定してください。



注意

OS が Windows Server 2012 (x64) 以降でない場合、このオプションは利用できません。



ヒント

Microsoft SQL Server Express は、管理下のネットワーク規模が小さい場合に適しています。大規模な Control Manager ネットワークの場合、SQL Server の使用をお勧めします。

- SQL Server —サーバ上で SQL Server が検出された場合、このオプションが自動的に選択されます。次の項目を入力してください。
- SQL Server (\Instance) —Control Manager で使用する SQL Server のホストサーバです。使用しているサーバに SQL Server が存在する場合は、このオプションが自動的に選択されます。

別のサーバを指定する場合は、FQDN、IPv4 アドレス、または NetBIOS 名を指定してください。

SQL Server のホストサーバは、Control Manager がインストールされているサーバ、または別のサーバのどちらでも指定することができますが、パフォーマンスを考慮し、別のサーバにインストールすることをお勧めします。複数の SQL Server インスタンスが存在する場合は、特定のインスタンスを指定する必要があります。次に例を示します。your_sql_server.com¥instance



注意

ユーザがリモートの SQL Server の使用を選択した場合は、[SQL Server] フィールドに IPv6 アドレスを指定しないでください。Control Manager では、IPv6 アドレスでリモートデータベースを識別できません。

3. [データベース認証] に、SQL Server にアクセスするための認証情報を入力します。
 - SQL Server アカウント
初期設定のユーザ名は「sa」です。
 - Windows アカウント
「domain name\user name」の形式でユーザ名を入力します。アカウントは次の要件を満たす必要があります。
 - 「管理者グループ」に属する
 - 「[サービスとしてログオン]」のユーザ権限を持っている
 - 「dbcreator」および「db_owner」データベースの役割を持っている

**警告!**

セキュリティ保護のため、SQL データベースには必ずパスワードを設定してください。

4. [Trend Micro Control Manager データベース] に Control Manager データベースの名前を入力します。

初期設定では「db_ControlManager」です。

5. データベースを作成するには、[次へ] をクリックします。既存の Control Manager データベースが検出された場合には、次のオプションを使用できます。
 - 既存のデータベースに新しいレコードを追加: インストールする Control Manager ではそれまでのサーバで使用されていた設定、アカウント、および製品ディレクトリのエンティティが使用されます。また、前回のインストールに指定した root アカウントがそのまま使用されます。root アカウントを新しく作成することはできません。

**注意**

Control Manager 7.0 をインストールする場合、前の Control Manager データベースバージョンに [既存のデータベースに新しいレコードを追加] を選択できません。

- 既存のレコードを削除して、新しいデータベースを作成: 既存のデータベースは削除され、同じ名前の新しいデータベースが作成されます。
- 別名で新規データベースを作成: 前の画面に戻ります。ここで Control Manager データベースの名前を変更することができます。

**注意**

既存のデータベースにレコードを追加する場合、root アカウントを変更することはできません。

root アカウントをセットアップする

手順

1. [次へ] をクリックします。

[root アカウントの作成] 画面が表示されます。



root アカウントの作成

Trend Micro Control Manager 7.0にはrootアカウントが必要です。rootアカウントは、英数字、ダッシュ、および下線を使用して31文字以内で入力する必要があります。

ユーザID: *

名前:

パスワード: *

パスワードの確認入力: *

メールアドレス:

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

図 3-12. Control Manager root アカウントのセットアップ

2. 次の情報を入力してください。
 - ユーザ ID
 - 名前
 - パスワード
 - パスワードの確認入力
 - メールアドレス

3. [次へ] をクリックします。
4. [完了] をクリックしてインストールを終了します。

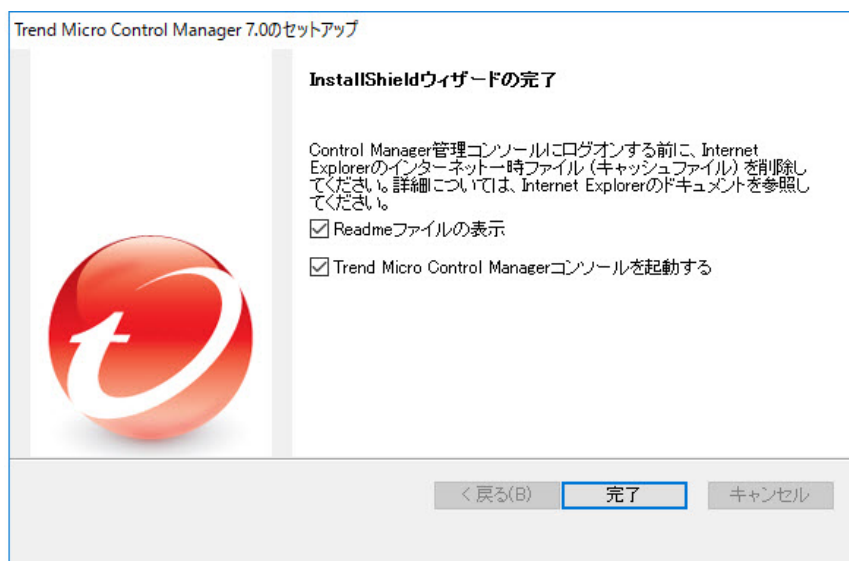


図 3-13. セットアップの完了

第 4 章

アップグレードと移行

この章では、Control Manager の以前のバージョンから Control Manager 7.0 にアップグレードまたは移行する方法について説明します。

次のトピックがあります。

- 72 ページの「Control Manager にアップグレードする 7.0」
- 74 ページの「アップグレードと移行のシナリオ」
- 76 ページの「Control Manager6.0 へロールバックする」
- 78 ページの「Control Manager エージェントの移行を計画する」
- 80 ページの「Control Manager データベースを移行する」

Control Manager にアップグレードする 7.0

Control Manager 6.0 のインストールを Control Manager 7.0 に移行すると、それまでのすべての設定、ログ、レポート、製品ディレクトリ構造、および統合された Active Directory 構造は保持されます。



重要

- Control Manager 7.0 へ移行できるのは Control Manager 6.0 のみです。
- Control Manager 7.0 に移行する前に、サーバに十分なシステムリソースがあることを確認してください。

詳細については、「システム要件」を参照してください。

アップグレードがサポートされているバージョン

Control Manager では、IIS の初期設定の Web サイトにインストールされている次のバージョンからのアップグレードがサポートされています。

- Control Manager 6.0
- Control Manager 6.0 Service Pack 1
- Control Manager 6.0 Service Pack 2
- Control Manager 6.0 Service Pack 3



警告!

アップグレードを実行する前に、必ず既存のサーバをバックアップしてください。

バックアップ対象の Control Manager ファイル

アップグレードを実行する前に、次の Control Manager ファイルのバックアップを作成します。

表 4-1. バックアップする必要がある Control Manager ファイル

CONTROL MANAGER6.0 に関 する情報	パス
データベース	SQL Server Management Studio または osql を使用して Control Manager データベースをバックアップします。詳細については、Control Manager のオンラインヘルプを参照してください。
認証情報	¥Program Files (x86)¥Trend Micro¥CmKeyBackup¥*. (Control Manager が復元された場合に、特定の Control Manager サーバに通知していた管理下の製品が、同じサーバに通知するように指定します)
アップデート関連 ファイル	¥Program Files (x86)¥Trend Micro¥Control Manager¥webui ¥download¥Activeupdate
Control Manager レ ジストリ	32 ビット OS の場合: HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥TVCS HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥CommonCGI HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows ¥CurrentVersion¥Uninstall¥TMCM HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥MSSQLServer HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services ¥TMCM
Control Manager レ ジストリ	64 ビット OS の場合: HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥TrendMicro ¥TVCS HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥TrendMicro ¥CommonCGI HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Microsoft ¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall¥TMCM HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥MSSQLServer HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services ¥TMCM

CONTROL MANAGER6.0 に関 する情報	パス
Control Manager レ ジストリ	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services ¥TrendMicro_NTP HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services ¥TrendCCGI HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services ¥MSSQL\$SQLEXPRESS

アップグレードと移行のシナリオ

Control Manager では、次のような移行シナリオがサポートされています。

- 74 ページの「シナリオ 1: Control Manager 6.0 サーバを Control Manager 7.0 へアップグレードする」
- 76 ページの「シナリオ 2: エージェント移行ツールを使用した Control Manager 7.0 の新規インストールへ移行する」

シナリオ 1: Control Manager 6.0 サーバを Control Manager 7.0 へアップグレードする

Control Manager 6.0 を Control Manager 7.0 に直接アップグレードする場合、Control Manager をバックアップするか、または Control Manager がインストールされているサーバの OS 全体をバックアップするかを選択できます。OS のバックアップにはより多くの作業が必要になりますが、データの損失を防止する上でより高度なセキュリティを提供します。

既存の Control Manager サーバとデータベースをバックアップしてアップグレードする

手順

1. 既存の Control Manager 6.0 データベースをバックアップします。
 2. ¥Trend Micro¥CmKeyBackup¥*. *以下のすべてのファイルをバックアップします。
 3. 現在の Control Manager6.0 サーバのすべてのフォルダをバックアップします。
 4. 現在の Control Manager6.0 サーバのレジストリをバックアップします。
 5. Control Manager 6.0 上に Control Manager 7.0 を上書きインストールします。
-

サーバの OS 全体と Control Manager データベースをバックアップしてアップグレードする

手順

1. 既存の Control Manager6.0 サーバの OS をバックアップします。
 2. 既存の Control Manager 6.0 データベースをバックアップします。
 3. Control Manager 6.0 上に Control Manager 7.0 を上書きインストールします。
-

アップグレードの流れ

Control Manager 6.0 を Control Manager 7.0 にアップグレードするには、[51 ページの「すべての必須コンポーネントのインストール」](#)の手順 1 の説明に従ってインストールプログラムを実行します。

シナリオ 2: エージェント移行ツールを使用した Control Manager 7.0 の新規インストールへ移行する

このシナリオには、既存の Control Manager サーバとは別のサーバに Control Manager 7.0 をインストールする作業が含まれます。この方法により、以前のサーバの使用を徐々に停止することができます。エージェントの移行の詳細については、[78 ページの「Control Manager エージェントの移行を計画する」](#)を参照してください。

Control Manager 6.0 サーバを Control Manager 7.0 の新規インストールに移行する

手順

1. 既存の Control Manager 6.0 データベースをバックアップします。
2. 別のコンピュータに Control Manager 7.0 を新規インストールします。
3. エージェント移行ツールを使用して、Control Manager 6.0 サーバから Control Manager 7.0 サーバにエンティティを移行します。



注意

エージェント移行ツールは、管理下の製品および管理下の製品ログの移行のみをサポートします。エージェント移行ツールでは、以前のサーバからのレポート、または製品ディレクトリの移行はサポートしません。

Control Manager 6.0 へロールバックする

Control Manager 7.0 へのアップグレードに失敗した場合、次の手順で Control Manager 6.0 システムに戻します。

Control Manager 7.0 サーバから Control Manager 6.0 へ ロールバックする

Control Manager 6.0 システムにロールバックするには、次のいずれかの方法を使用します。

- Control Manager サーバおよびデータベースのバックアップからのロールバック
- サーバの OS 全体と Control Manager データベースのバックアップからのロールバック

Control Manager サーバおよびデータベースのバックアップからロールバックする

手順

1. Control Manager 7.0 サーバをアンインストールします。
2. Control Manager 6.0 サーバをインストールします。
3. 必要な Control Manager 6.0 の Service Pack と HotFix を適用します。



警告!

元の Control Manager 6.0 サーバでインストールした Service Pack と HotFix のみを適用します。

4. バックアップしたデータベースで、Control Manager 6.0 データベースを復元します。
5. バックアップしたフォルダで、Control Manager 6.0 のすべてのフォルダを復元します。
6. バックアップしたレジストリで、Control Manager 6.0 レジストリを復元します。
7. ¥Trend Micro¥CmKeyBackup¥*. *以下のすべてのファイルを復元します。

8. 以前の証明書をインポートします。

サーバの OS 全体と Control Manager データベースのバックアップからロールバックする

手順

1. バックアップしたデータベースで、Control Manager 6.0 データベースを復元します。
 2. バックアップした OS で、サーバの OS を復元します。
-

Control Manager エージェントの移行を計画する

Control Manager 7.0 サーバにエージェントを移行するには、次の 2 つの方法があります。

- 一括アップグレード
- 段階的アップグレード

一括アップグレード

一括アップグレードは、次の表に示す方法で行われます。

表 4-2. 一括アップグレード

移行元	処理
サーバ: Control Manager 6.0 エージェント: MCP	MCP エージェントを Control Manager 7.0 サーバに登録し、製品ディレクトリ構造を再構成します。

移行元	処理
サーバ: Control Manager 6.0 エージェント: エージェントの混在	MCP エージェントを Control Manager 7.0 サーバに登録し、製品ディレクトリ構造を再構成します。

この方法は、出荷時の設定で使用している場合や比較的小規模なネットワークで運用しているエージェントの移行 (できれば、テスト環境) に推奨します。[31 ページの「テストインストール」](#)を参照してください。しかし、一度開始した移行処理は中止できないため、この方法は小規模の配信に最適で、ネットワークの規模が大きいほど難度も高くなります。

段階的アップグレード

単一サーバを大規模な Control Manager 6.0 システムで運用している場合、トレンドマイクロでは段階的アップグレードをお勧めします。また、複数のサーバが存在するネットワークの場合にはこの方法が必須です。この方法では、より体系的にシステムを移行することができます。移行作業は、次の方針に基づいて進めます。

- 既存のネットワークの中で最も移行の影響が小さいと思われるシステムで、まず移行を実施します。その後、より影響が大きいシステムの移行を順次実行します。
- 十分に計画を立てた後、1 度にすべての移行手順を実行するのではなく、1 つずつ手順を実行します。

そうすることによって、移行中に問題が発生した場合に問題解決のための作業を最小限にすることができます。

段階的アップグレードを実施するには、次の手順に従ってください。

1. 以前の Control Manager バージョンがインストールされていないサーバに Control Manager 7.0 をインストールします。
2. Control Manager 7.0 サーバで AgentMigrateTool.exe ツールを実行します。

Control Manager エージェントインストールとエージェント移行ツールを併せて利用し、既存の Control Manager システム上でのエージェントアップグレー

ド計画を立ててください。エージェント移行ツールの利用により、Control Manager エージェントが登録されているサーバのリストを生成できます。これにより、移行元サーバを手動で選択する必要がなくなります。

Control Manager データベースを移行する

Control Manager 6.0 データベースを移行するには、Control Manager 6.0 サーバに Control Manager 7.0 をインストールします。トレンドマイクロの推奨する方法です。

Control Manager 7.0 のセットアッププログラムにより、データベースが自動的にバージョン 7.0 にアップグレードされます。

Control Manager SQL データベースを他の SQL Server に移行する

Control Manager データベースを SQL Server から別の SQL Server に移動するには、DBConfig ツールを使用して移行します。

データベース設定ツールを使用する (DBConfig.exe)

DBConfig.exe ツールにより、ユーザは Control Manager データベース用のユーザアカウント、パスワード、およびデータベース名を変更できます。

このツールには次のオプションがあります。

- DBName: データベース名
- DBAccount: データベースのアカウント
- DBPassword: データベースのパスワード
- Mode: データベース認証モード (SQL Server 認証または Windows 認証)



注意

初期設定は、SQL Server 認証モードです。ただし、Windows 認証を設定する際には、Windows 認証モードで行う必要があります。

手順

1. Control Manager サーバでコマンドプロンプトを開きます。
2. 次のコマンドを使用して、DBConfig.exe ファイルが含まれるディレクトリを見つけます。

```
cd <Control Manager インストールディレクトリ>\DBConfig
```

3. **dbconfig** と入力し、**ENTER** キーを押します。

DBConfig ツールインタフェースが表示されます。

4. 変更する設定を指定します。
 - 例 1: DBConfig -DBName="db_<データベース名>" -DBAccount="sqlAct" -DBPassword="sqlPwd" -Mode="SQL"
 - 例 2: DBConfig -DBName="db_<データベース名>" -DBAccount="winAct" -DBPassword="winPwd" -Mode="WA"
 - 例 3: DBConfig -DBName="db_<データベース名>" -DBPassword="sqlPwd"

詳細については、次の Web サイトを参照してください。

<http://esupport.trendmicro.com/solution/ja-jp/1306559.aspx>

第 5 章

インストール後のタスク

この章では、Control Manager インストールの完了後にトレンドマイクロが推奨するタスクについて説明します。

次のトピックがあります。

- 84 ページの「インストール後の自動タスク」
- 84 ページの「サーバのインストールまたはアップグレードを確認する」
- 86 ページの「製品のアクティベーション」
- 87 ページの「Active Directory 接続を設定する」
- 89 ページの「ユーザアカウントの設定」
- 90 ページの「最新コンポーネントのダウンロード」
- 90 ページの「イベント通知を設定する」

インストール後の自動タスク

Control Manager では、インストールが正常に完了した後で、次のタスクが自動的に実行されます。

- 未使用のパターンファイルおよびエンジンの削除
- 以前に行われた Active Directory サーバ設定の移行
- Active Directory サーバデータの同期

サーバのインストールまたはアップグレードを確認する

インストールやアップグレードが完了したら、次の項目を確認します。

項目	説明
プログラムのリスト	<p>次のプログラムがサーバコンピュータの [プログラムの追加と削除] (または、[プログラムと機能]) のリスト ([コントロール パネル] > [プログラムの追加と削除] (または、[プログラムと機能])) に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• Trend Micro Control Manager• Microsoft Visual C++ 2005、2008、2012、2015 再頒布可能パッケージ• Microsoft Report Viewer 2012 Runtime• Microsoft SQL Server 2016• Microsoft SQL Server 2016 Native Client• Microsoft SQL Server 2016 Setup• Microsoft SQL Server 2016 Setup Support Files• Microsoft SQL Server Browser• Microsoft SQL Server VSS Writer

項目	説明
ディレクトリフォルダ	<p>次のフォルダがサーバコンピュータの C:\Program Files (x86) ディレクトリに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Trend Micro\CmKeyBackup • Trend Micro\COMMON\TMI • Trend Micro\Control Manager
Control Manager データベースファイル	<ul style="list-style-type: none"> • db_ControlManager.mdf • db_ControlManager_Log.LDF
セットアッププログラムにより次のサービスおよびプロセスが作成されていること	
Control Manager サービス	<ul style="list-style-type: none"> • Trend Micro Control Manager • Trend Micro Management Infrastructure
Microsoft Internet Information Server プロセス	<ul style="list-style-type: none"> • w3wp.exe (Internet Information Services)
ISAPI フィルタ	<ul style="list-style-type: none"> • CCGIRedirect • ReverseProxy • TmcmRedirect
Control Manager プロセス	<ul style="list-style-type: none"> • CasProcessor.exe • CmdProcessor.exe • CmdProcessor.NET.exe • LogReceiver.exe • LogRetriever.exe • MsgReceiver.exe • ProcessManager.exe • ReportServer.exe • sCloudProcessor.NET.exe

項目	説明
メッセージキューブ ロセス	LogProcessor.exe

製品のアクティベーション

セキュリティアップデートファイルや製品アップデートファイルを常に最新のものにするために、Control Manager サーバのアクティベーションを実行します。

Control Manager のアクティベーションおよびライセンス情報

Control Manager のインストール時にアクティベーションを実行しなかった場合は、管理コンソールからアクティベーションを実行できます。

Control Manager のアクティベーションを実行する

トレンドマイクロの営業担当者または販売代理店からアクティベーションコードを入手した後に Control Manager のアクティベーションを実行できます。

手順

1. [運用管理] > [ライセンス管理] > [Control Manager] に移動します。
[ライセンス情報] 画面が表示され、現在のライセンス情報が示されます。
2. [ライセンス情報をオンラインで確認] をクリックします。
Trend Micro Customer Licensing Portal の [ログオン] 画面が表示されます。
3. トrendマイクロのアカウントとパスワードを使用して Customer Licensing Portal にログオンします。

4. [ユーザの製品/サービス] メニュータブをクリックします。
 5. [キーの入力] をクリックします。
[ライセンスキー] 画面が表示されます。
 6. アクティベーションコードを入力します。
 7. [続行] をクリックします。
[ユーザの製品/サービス] 画面が表示され、更新されたライセンス情報が示されます。
-

製品版へのアップグレード

体験版の試用期間が過ぎた後も Control Manager を引き続き使用するには、Control Manager のアクティベーションを実行します。アップデート済みのプログラムコンポーネントのダウンロードなどのサポートサービスを含む、全機能を使用するためには、Control Manager のアクティベーションを実行してください。

手順

1. 製品版を購入します。購入については、トレンドマイクロの営業部または販売代理店にお問い合わせください。
 2. 製品版パッケージに付属のアクティベーションコードを用意します。
 3. 上記の手順に従って Control Manager のアクティベーションを行ってください。
-

Active Directory 接続を設定する

Control Manager が Active Directory サーバからのエンドポイントおよびユーザの情報を同期できるように接続設定を指定します。

**注意**

Control Manager は、複数の Active Directory フォレストとの同期をサポートしています。Active Directory ドメインを追加すると、同じフォレストのすべてのドメインが自動的に同期されます。

フォレストの信頼の詳細については、Active Directory 管理者にお問い合わせください。

手順

1. [運用管理] > [設定] > [Active Directory とコンプライアンスの設定] に移動します。
2. [Active Directory の設定] タブをクリックします。
3. [Active Directory との同期と認証を有効にする] を選択します。
4. Active Directory サーバにアクセスするための接続を設定します。

フィールド	説明
サーバアドレス	Active Directory サーバの FQDN または IP アドレス (IPv4 または IPv6) を入力します。
ユーザ名	Active Directory サーバへのアクセスに必要なドメイン名とユーザ名を入力します。 形式の例: ドメイン\ユーザ名
パスワード	Active Directory サーバへのアクセスに必要なパスワードを入力します。

**注意**

- 他の Active Directory サーバを追加するには、追加アイコン (+) をクリックします。
- Active Directory サーバを削除するには、削除アイコン (-) をクリックします。

5. [同期間隔] ドロップダウンリストから、Control Manager が Active Directory サーバとデータを同期する間隔を選択します。

**注意**

Active Directory の同期時間は、Active Directory データベースのサイズと複雑さに応じて異なります。同期が完了するまでに 1 時間以上かかる場合もあります。

6. (オプション) [接続テスト] をクリックして、サーバ接続をテストします。

**注意**

接続をテストしても、Active Directory サーバの設定は保存されません。

サーバアドレスの前に、Active Directory サーバの接続ステータスアイコン (✓ または ✗) が表示されます。

7. [保存] をクリックします。

Active Directory サーバの接続を設定して保存したら、次のタスクを実行できます。

- [今すぐ同期] をクリックして、データを Active Directory サーバと手動で同期します。

サーバアドレスの前に、Active Directory サーバの接続ステータスアイコン (✓ または ✗) が表示されます。

- [データのクリア] をクリックして、削除された Active Directory サーバのデータを Control Manager データベースから手動で削除します。

**注意**

[データのクリア] をクリックすると、2 分ごとに実行されるスケジュールされたタスクがトリガされ、削除された Active Directory サーバのすべてのデータが削除されます。

ユーザアカウントの設定

必要に応じて Control Manager ユーザアカウントを作成します。アカウントを作成するときは次の点を考慮します。

- ユーザの役割それぞれの数 (Administrator、Power User、Operator)
- ユーザの役割それぞれへの適切な許可および権限の割り当て
- ユーザがさらに高度な機能を利用するためには、「Power User」以上の権限が必要になります。

最新コンポーネントのダウンロード

インストール完了後、トレンドマイクロのアップデートサーバから手動で最新のコンポーネントをダウンロードします。トレンドマイクロのアップデートサーバは、最新のセキュリティ保護を継続できるよう最新のコンポーネントを提供しています。トレンドマイクロのサーバとインターネットの間にプロキシサーバがある場合には、プロキシサーバを設定する必要があります (管理コンソールで [運用管理] > [設定] > [プロキシの設定] の順に選択します)。

イベント通知を設定する

インストール完了後、通知を送信するイベントを設定し、重大なウイルス攻撃やセキュリティに関わるアクティビティを監視できるようにします。通知の受信者を指定するほか、通知チャネルを選択し、通知の送信が期待どおりに実行されるかどうかをテストします。管理コンソールから [通知とレポート] > [イベント通知] の順に選択します。

第 6 章

Control Manager のアンインストール

本章では、Trend Micro Control Manager (以下、Control Manager) サーバ、Control Manager エージェント、およびその他の関連ファイルを含む Control Manager コンポーネントをアンインストールする方法について説明します。

次のトピックがあります。

- [92 ページの「Control Manager サーバをアンインストールする」](#)
- [93 ページの「Control Manager を手動でアンインストールする」](#)

Control Manager サーバをアンインストールする

Control Manager の自動アンインストールには、次の 2 つの方法があります。

手順

- 方法 1: Control Manager のアンインストーラを使用 Windows の [スタート] メニューから、[プログラム] > [Trend Micro Control Manager] > [Trend Micro Control Manager のアンインストール] の順に選択します。
- 方法 2: Windows の [プログラムの追加と削除] を使用
 - a. [スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [プログラムの追加と削除] をクリックします。

- b. [Trend Micro Control Manager] をクリックし、[アンインストール] を選択します。

確認ダイアログが表示されます。

- c. Control Manager をアンインストールする場合は [はい] をクリックしてください。



警告!

この操作では、関連するサービスと Control Manager データベースが自動的に削除されます。

- d. データベースを保持する場合は [はい]、保持しない場合は [いいえ] をクリックします。



注意

データベースを保持しておくと、サーバに Control Manager を再インストールする際にエージェントの登録やユーザアカウントのデータなどのシステム情報を再使用することができます。

Control Manager サーバを再インストールするときに元のデータベースが削除されていた場合でも、次の条件を満たすとき、エージェントがサーバに再登録されます。

- ・ エージェントのサービスを再起動したとき
- ・ エージェントから Control Manager サーバへの定期通信時 (Control Manager エージェントの場合は 8 時間ごと、Trend Virus Control System (以下、TVCS) エージェントの場合は 12 時間ごと)

Control Manager を手動でアンインストールする

ここでは、Control Manager を手動でアンインストールする方法について説明します。ここで説明する手順は、Windows の「プログラムの追加と削除」、または Control Manager のアンインストールプログラムを使用して正常にアンインストールできなかった場合にのみ使用してください。



注意

Windows での手順は、使用している OS のバージョンによって異なる場合があります。ここでは Windows Server 2008 を使用していることを前提に説明しています。

Control Manager のアンインストールでは、次のコンポーネントを削除する必要があります。これらのコンポーネントは任意の順序でアンインストールできます。また、一括でアンインストールすることもできます。ただし、ここでは、説明の便宜上、節ごとに各モジュールのアンインストール手順を個別に説明します。各コンポーネントは以下のとおりです。

- ・ Control Manager アプリケーション
- ・ Trend Micro Common CGI モジュール
- ・ データベースコンポーネント (任意)
- ・ PHP
- ・ FastCGI (Windows Server 2008 では存在しません)

Common CGI モジュールは、他のトレンドマイクロ製品でも使用されています。したがって、同じコンピュータに他のトレンドマイクロ製品がインストールされている場合は、これらの 2 つのコンポーネントをアンインストールしないことを推奨します。

**注意**

すべてのコンポーネントをアンインストールしたら、サーバを再起動してください。各コンポーネントをアンインストールするたびに再起動する必要はありません。

Control Manager アプリケーションをアンインストールする

Control Manager アプリケーションを手動でアンインストールするには、次の手順に従ってください。

1. [94 ページの「Control Manager サービスを停止する」](#)
2. [96 ページの「Control Manager の IIS 設定を削除する」](#)
3. [98 ページの「Crystal Reports、PHP、FastCGI、および CCGI のアンインストール」](#)
4. [99 ページの「Control Manager のファイル/ディレクトリおよびレジストリキーを削除する」](#)
5. [100 ページの「データベースコンポーネントの削除」](#)
6. [101 ページの「Control Manager サービスと NTP サービスをアンインストールする」](#)

Control Manager サービスを停止する

次の Control Manager サービスのすべて、および IIS サービスを停止する場合は、Windows の [サービス] 画面を使用します。

- Trend Micro Common CGI
- Trend Micro Control Manager
- Trend Micro Network Time Protocol

**注意**

これらのサービスは、Windows OS のバックグラウンドで動作するものです。アクティベーションコードを必要とするトレンドマイクロのサービスではありません。

Windows のサービス画面から Control Manager サービスを停止する

手順

1. [スタート] > [プログラム] > [管理ツール] > [サービス] をクリックして、[サービス] 画面を開きます。
2. 対象の <Control Manager サービス> を右クリックして、[停止] をクリックします。

コマンドプロンプトから Control Manager および IIS サービスを停止する

手順

- コマンドプロンプトからサービスを停止するには、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
net stop w3svc
```

```
net stop tmcm
```



図 6-1. 対象のサービスを停止したコマンドラインのビュー

Control Manager の IIS 設定を削除する

IIS (Internet Information Service) 設定の削除は、Control Manager サービスを停止した後に実行します。

手順

1. Control Manager サーバで、Windows の [スタート] > [ファイル名を指定して実行] の順に選択します。

[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが表示されます。

2. [名前] ボックスに次のように入力します。

```
%SystemRoot%\System32\Inetsrv\iis.msc
```

3. 左側のメニューでサーバ名をダブルクリックしてコンソールツリーを展開します。
4. [Default Web Site] をダブルクリックします。
5. 次の仮想ディレクトリを削除します。

- ControlManager

- TVCSDownload
 - crystalreportviewers12
 - TVCS
 - jakarta
 - WebApp
6. [IIS 6 の場合のみ]
- a. インストール時に設定した IIS Web サイトを右クリックします。
 - b. [プロパティ] をクリックします。
 - c. [ISAPI フィルタ] タブを選択します。
- [IIS7.x の場合]
- a. インストール時に設定した IIS Web サイトを右クリックします。
 - b. IIS カテゴリの中の [ISAPI フィルタ] をダブルクリックします。
7. 次の ISAPI フィルタを削除します。
- TmcmRedirect
 - CCGIRedirect
 - ReverseProxy
8. IIS 6 の場合のみ、次の Web サービス拡張機能を削除します。
- Trend Micro Common CGI Redirect Filter (CCGI を削除する場合)
 - Trend Micro Control Manager CGI 拡張機能 (IIS7.x ではサービス拡張機能は存在しません)
-

Crystal Reports、PHP、FastCGI、および CCGI のアンインストール

PHP、FastCGI、および CCGI のアンインストールは任意です。[プログラムの追加と削除]を使用して、Crystal Reports ランタイムファイル、PHP、および FastCGI をアンインストールします。

Crystal Reports ランタイムファイルのアンインストール

手順

1. Control Manager サーバで、[スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [プログラムの追加と削除] (または、[プログラムと機能]) をクリックします。
 2. 画面をスクロールして [Crystal Reports Runtime Files] を選択し、[削除] をクリックします。これで、Crystal Reports 関連の各ファイルが自動的に削除されます。
-

PHP と FastCGI のアンインストール

手順

1. Control Manager サーバで、[スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [プログラムの追加と削除] (または、[プログラムと機能]) をクリックします。
 2. 画面をスクロールして [PHP 5.3.5] を選択し、[削除] (または、[アンインストール]) をクリックします。これで、PHP 関連の各ファイルが自動的に削除されます。
 3. 画面をスクロールして [FastCGI] を選択し、[削除] (または、[アンインストール]) をクリックします。これで、FastCGI 関連の各ファイルが自動的に削除されます。
-

CCGI のアンインストール

手順

1. Sc.exe を実行します。
2. 次のコマンドを入力します。

```
sc delete "TrendCGI"
```

Control Manager のファイル/ディレクトリおよびレジストリキーを削除する

手順

1. 次のディレクトリを削除します。
 - .Trend Micro¥Control Manager
 - .Trend Micro¥COMMON¥ccgi
 - .PHP
 - C:¥Documents and Settings¥All Users¥Start Menu¥Programs¥PHP 5
 - C:¥Documents and Settings¥All Users¥Start Menu¥Programs¥Trend Micro Control Manager
2. レジストリエディタを起動し、次の Control Manager レジストリキーを削除します。
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\TrendMicro\CommonCGI
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\TrendMicro\DamageCleanupService
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\TrendMicro\MCPAgent
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\TrendMicro\OPPTrustPort

- HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\TrendMicro\TVCS
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\TrendMicro
 \VulnerabilityAssessmentServices
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows
 \CurrentVersion\Uninstall\TMCM
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services
 \TMCM
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services
 \TrendCCGI
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services
 \TrendMicro_NTP
-

データベースコンポーネントの削除

ここでは、Control Manager サーバから次のデータベースコンポーネントを削除する方法について説明します。

- Control Manager の ODBC 設定を削除する
- Control Manager の SQL Server 2008 Express データベースを削除する

Control Manager の ODBC 設定を削除する

手順

1. Control Manager サーバで、Windows の [スタート] > [ファイル名を指定して実行] の順に選択します。
[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが表示されます。
2. [名前] ボックスに次のように入力します。
`odbcad32.exe`
3. [ODBC データ ソース アドミニストレータ] 画面で、[システム DSN] タブをクリックします。

4. [名前] から [ControlManager_Database] を選択します。
5. [削除] をクリックし、[はい] をクリックして削除を確定します。

Control Manager の SQL Server 2008 R2 Express データベースを削除する

手順

1. Control Manager サーバで、[スタート] > [コントロール パネル] > [プログラムの追加と削除] (または、[プログラムと機能]) をクリックします。
2. 画面をスクロールして [SQL Server 2008 R2] を選択し、[削除] (または、[アンインストールと変更]) をクリックします。これで、関連する各ファイルが自動的に削除されます。



ヒント

アンインストールに関する問題が発生した場合は、SQL Server 2008 R2 をアンインストールする方法について、Microsoft の Web サイト (<http://support.microsoft.com/kb/955499/ja>) を参照することをお勧めします。

<http://support.microsoft.com/kb/955499>

Control Manager サービスと NTP サービスをアンインストールする

手順

1. Microsoft のサービスツールである sc.exe を実行します。
2. 次のコマンドを入力します。

```
sc delete "TMCM"
```

```
sc delete "TrendMicro_NTP"
```


第 7 章

Control Manager のシステムチェック リスト

このセクションでは、システム関連情報を記入するためのチェックリストを参考として提供します。

次のトピックがあります。

- [104 ページの「サーバアドレスのチェックリスト」](#)
- [105 ページの「ポートのチェックリスト」](#)
- [106 ページの「Control Manager の入力規則」](#)
- [106 ページの「コアプロセスおよび設定ファイル」](#)
- [108 ページの「通信ポートおよびサービスポート」](#)

サーバアドレスのチェックリスト

インストール処理の実行中、およびネットワークで使用する Trend Micro Control Manager (以下、Control Manager) サーバの設定時には、次のサーバアドレス情報を入力する必要があります。必要なときにいつでも参照できるように、ここに記録しておくことをお勧めします。

表 7-1. サーバアドレスのチェックリスト

必要な情報	EXAMPLE	設定する値
Control Manager サーバ情報		
IP アドレス	10.1.104.255	
FQDN (完全修飾ドメイン名)	server.example.com	
NetBIOS (ホスト) 名	yourserver	
Web サーバ情報		
IP アドレス	10.1.104.225	
FQDN (完全修飾ドメイン名)	server.example.com	
NetBIOS (ホスト) 名	yourserver	
Control Manager の SQL データベース情報		
IP アドレス	10.1.104.225	
FQDN (完全修飾ドメイン名)	server.example.com	
NetBIOS (ホスト) 名	sqlserver	
コンポーネントダウンロード用のプロキシサーバ		
IP アドレス	10.1.174.225	
FQDN (完全修飾ドメイン名)	proxy.example.com	

必要な情報	EXAMPLE	設定する値
NetBIOS (ホスト) 名	proxyserver	
SMTP サーバ情報 (任意: メールメッセージ通知用)		
IP アドレス	10.1.123.225	
FQDN (完全修飾ドメイン名)	mail.example.com	
NetBIOS (ホスト) 名	mailserver	
SNMP トラップ情報 (任意: SNMP トラップ通知用)		
コミュニティ名	trendmicro	
IP アドレス	10.1.194.225	
Syslog サーバ情報 (任意: Syslog 通知用)		
IP アドレス	10.1.194.225	
サーバポート番号	514	

ポートのチェックリスト

Control Manager では、次のポートをそれぞれの目的に使用します。

ポート	例	設定する値
SMTP	25	
プロキシ	8088	
管理コンソールおよびアップデート/配信コンポーネント	80	
ファイアウォール転送用 (任意: Control Manager のエージェントのインストール時に使用)	224	

Control Manager の入力規則

Control Manager のインストールまたは管理コンソールの設定には、次の規則が適用されますので注意してください。

- ユーザ名
 - 最大長 —32 文字
 - 使用できる文字 —A～Z、a～z、0～9、「-」、「_」
- フォルダ名
 - 最大長 —40 文字
 - 使用できない文字 —/ > & "



注意

Control Manager サーバのホスト名については、インストール時にアンダースコア () を使用できます。

コアプロセスおよび設定ファイル

Control Manager では、システム設定および一時ファイルが XML 形式で保存されます。

次の表は、Control Manager で使用される設定ファイルおよびプロセスを示しています。

表 7-2. Control Manager 設定ファイル

設定ファイル	説明
AuthInfo.ini	プライベートキーファイル名、公開鍵ファイル名、証明書ファイル名、プライベートキーの暗号化されたパスフレーズ、ホスト ID、およびポートに関する情報を含む設定ファイルです。
aucfg.ini	アップデート設定ファイル

設定ファイル	説明
TVCS_Cert.pem	SSL 認証で使用される証明書です。
TVCS_Pri.pem	SSL で使用されるプライベートキーです。
TVCS_Pub.pem	SSL で使用される公開鍵です。
ProcessManager.xml	ProcessManager.exe で使用されます。
CmdProcessorEventHandler.xml	CmdProcessor.exe で使用されます。
DMRegisterinfo.xml	CasProcessor.exe で使用されます。
DataSource.xml	Control Manager のプロセスの接続パラメータを保存します。
SystemConfiguration.xml	Control Manager システム設定ファイル
agent.ini	MCP エージェントのファイルです。

表 7-3. Control Manager プロセス

プロセス	説明
ProcessManager.exe	Control Manager のコアプロセスを起動および停止します。
CmdProcessor.exe	他のプロセスによって作成された XML 命令の管理下の製品への送信、製品の登録の処理、アラートの送信、スケジュールされたタスクの実行、大規模感染予防ポリシーの適用などを行います。
LogReceiver.exe	過去のバージョンとの互換性のためにのみに使用します。
LogProcessor.exe	管理下の製品からログを受信し、管理下の製品からエンティティ情報を受信します。
LogRetriever.exe	ログを受信し、Control Manager データベースに保存します。
ReportServer.exe	Control Manager レポートを生成します。

プロセス	説明
MsgReceiver.exe	Control Manager サーバおよび管理下の製品からメッセージを受信します。
CasProcessor.exe	Control Manager サーバが他の Control Manager サーバを管理できるようにします。
inetinfo.exe	Microsoft Internet Information Service プロセスです。
cm.exe	dmserver.exe および mrf.exe を管理します。
dmserver.exe	Control Manager 管理コンソールのログオンページを提供し、製品ディレクトリ (Control Manager 側) を管理します。
sCloudProcessor.NET.exe	ステータスの照会、結果の照会、要求のキャンセルを実行するために、Control Manager 管理コンソールまたはその他のプロセスに発行元のジョブ ID を提供するように要求します。ユーザ/エンドポイントディレクトリによって使用されます。

通信ポートおよびサービスポート

初期設定の Control Manager 通信ポートおよびサービスポートは次のとおりです。

サービス	サービスポート
ProcessManager.exe	20501
CmdProcessor.exe	20101
comdProcessor.NET.exe	21003
LogReceiver.exe	20201
LogProcessor.exe	21001
LogRetriever.exe	20301
ReportServer.exe	20601
MsgReceiver.exe	20001

サービス	サービスポート
CasProcessor.exe	20801
sCloudProcessor.NET.exe	21002

索引

アルファベット

Active Directory
 手動同期, 87
 接続の設定, 87
 同期の頻度, 87
Control Manager, 15, 16, 19
 MCP, 19
 SQL データベース, 19
 Web サーバ, 19
 Web サービスの統合, 19
 Web ベースの管理コンソール, 20
 アクティベーション, 86
 インストール, 47, 49, 51
 インストール手順, 51
 ウィジェットフレームワーク, 20
 Control Manager, 15
 について, 16
 コマンドプロンプト、サービスの
 停止, 95
 しずむようけん, 48
 手動アンインストール, 93, 94
 セキュリティレベル, 59, 62
 テストインストールの実施, 31
 データベースの移行, 80
 登録, 86
 メールサーバ, 19
 ライセンス情報, 86
 レポートサーバ, 19
Control Manager のバックアップ, 73, 74
DBConfig ツール, 80
MCP, 19
 コマンドポーリング, 39
 接続ステータス, 39
 ポリシー, 39

ODBC

 設定、Control Manager, 100

Web サーバ

 計画, 44
 設定, 44

あ

アクティベーション
 Control Manager, 86
アクティベーションコード, 86
アップグレード, 72
 Control Manager 情報のバックアッ
 プ, 73, 74
 製品版, 87
アップデート
 配信, 41
アンインストール
 Control Manager 手動, 93
 手動
 Control Manager, 94
移行, 78
 Control Manager SQL 2000, 80
 一括アップグレード, 78
 計画, 78
 段階的アップグレード, 79
 データベース, 80
 一括アップグレード, 78
インストール
 Control Manager, 47, 51
 正常確認, 84
 手順, 51
 フロー, 31
インストール手順
 Control Manager, 51

か

概要

集中管理, 25

分散管理, 26

コマンドプロンプト

Control Manager、サービスの停止,
95

コマンドポーリング

MCP, 39

さ

削除

手動

Microsoft Data Engine, 100

サーバ

アドレスのチェックリスト, 104

サーバアドレスのチェックリスト, 104

サーバの配置計画, 34

システム要件, 48

集中管理

概要, 25

手動

Control Manager のアンインストール,
94

手動アンインストール, 93

推奨設定

データベース, 42

正常なインストールの確認, 84

製品登録

トラフィック, 40

製品版

アップグレード, 87

セキュリティレベル, 60

接続ステータス, 37

MCP, 39

設定

Web サーバ, 44

ユーザアカウント, 89

た

段階的アップグレード, 79

チェックリスト

サーバアドレス, 104

ポート, 105

ツール

DBConfig ツール, 80

テストインストール

テスト, 31

データベース

計画, 42

推奨設定, 42

登録

Control Manager, 86

ドキュメント, 10

トラフィック、ネットワーク, 36

な

ネットワークトラフィック

発生元, 38

ネットワークトラフィックの計画, 36

は

配置

アーキテクチャと戦略, 24

集中, 25

複数の拠点, 26

分散管理

概要, 26

ポリシー

MCP, 39

ポート

チェックリスト, 105

や

ユーザアカウント

設定, 89
用語, 12

ら

ライセンス情報, 86
レジストレーションキー, 87
ログ
 トラフィック, 38
ロールバック
 Control Manager 6.0 サーバ, 76

